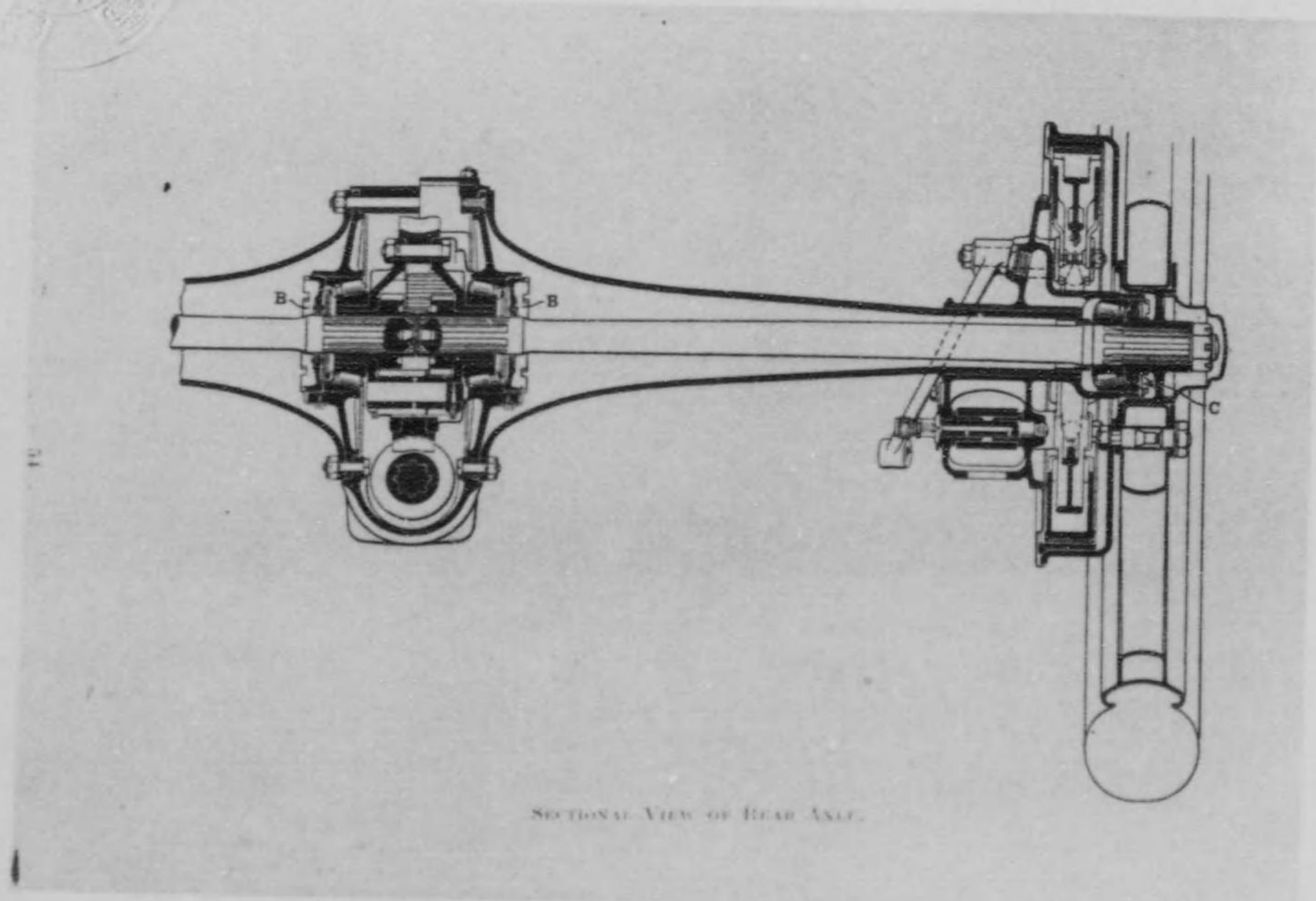


SECTIONAL ARRANGEMENT OF GEAR BOX.

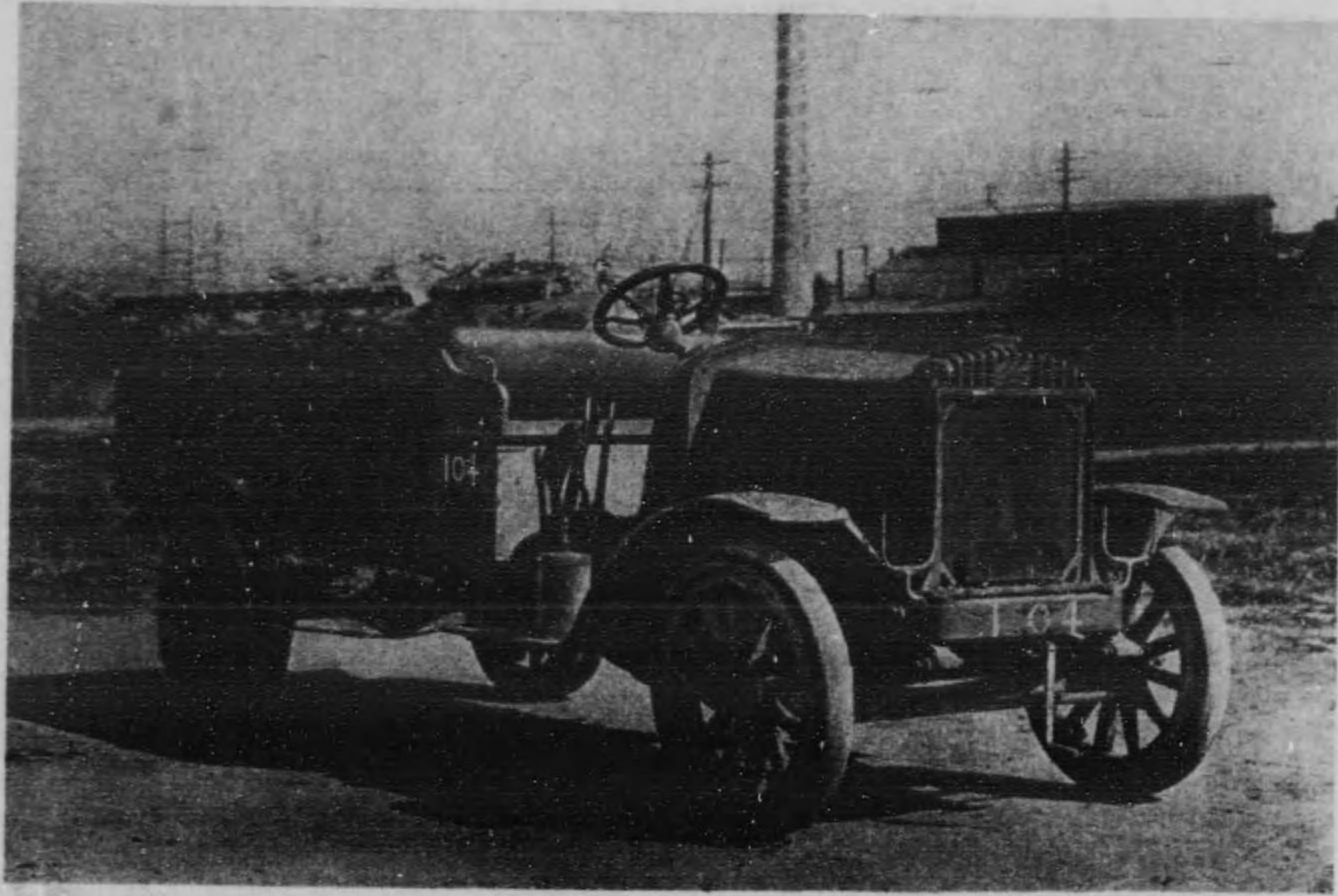
機 速 變 - レ ズ - ウ



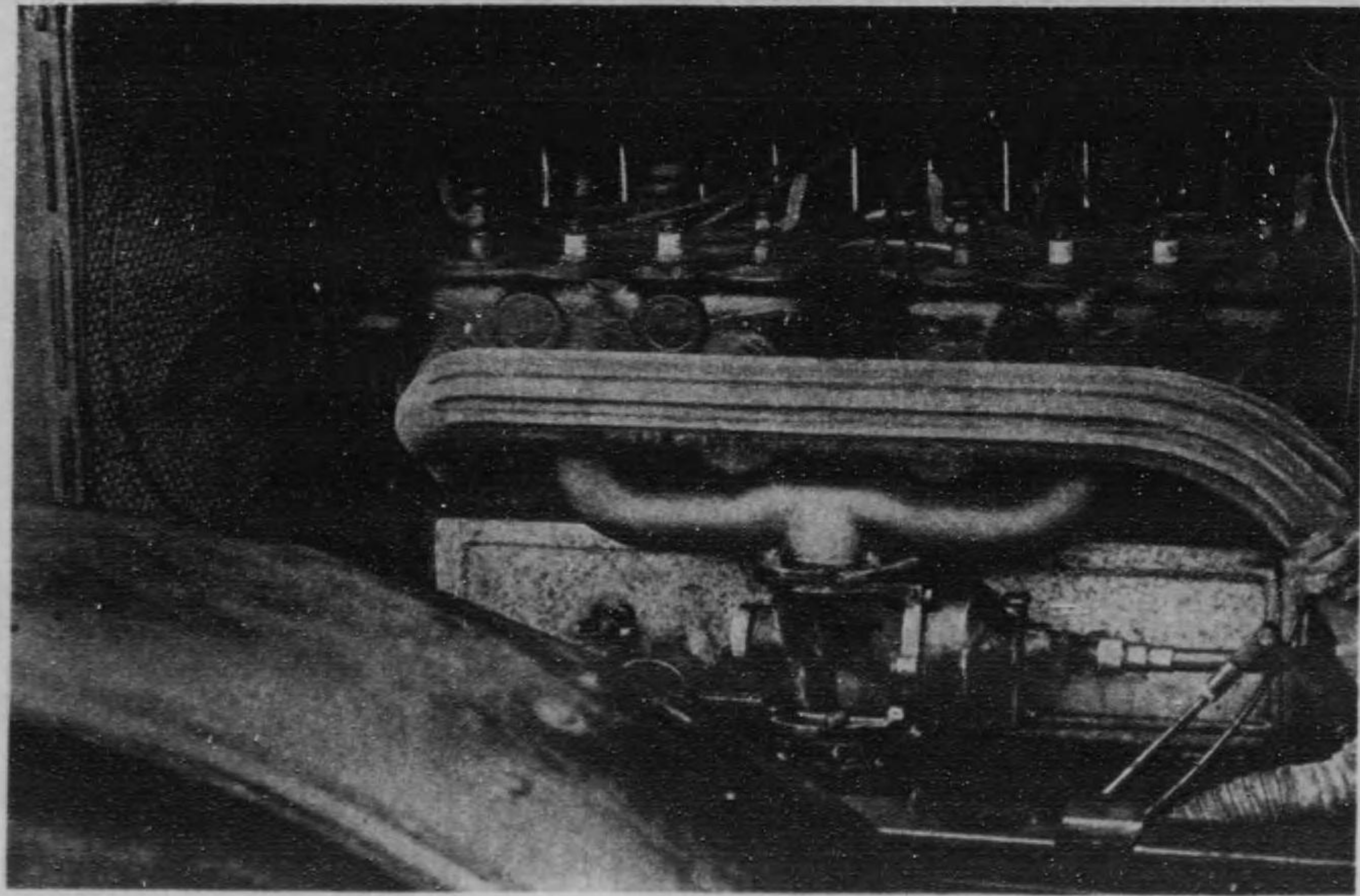
SECTIONAL VIEW OF REAR AXLE.

軸 車 後 - レ ズ - ウ





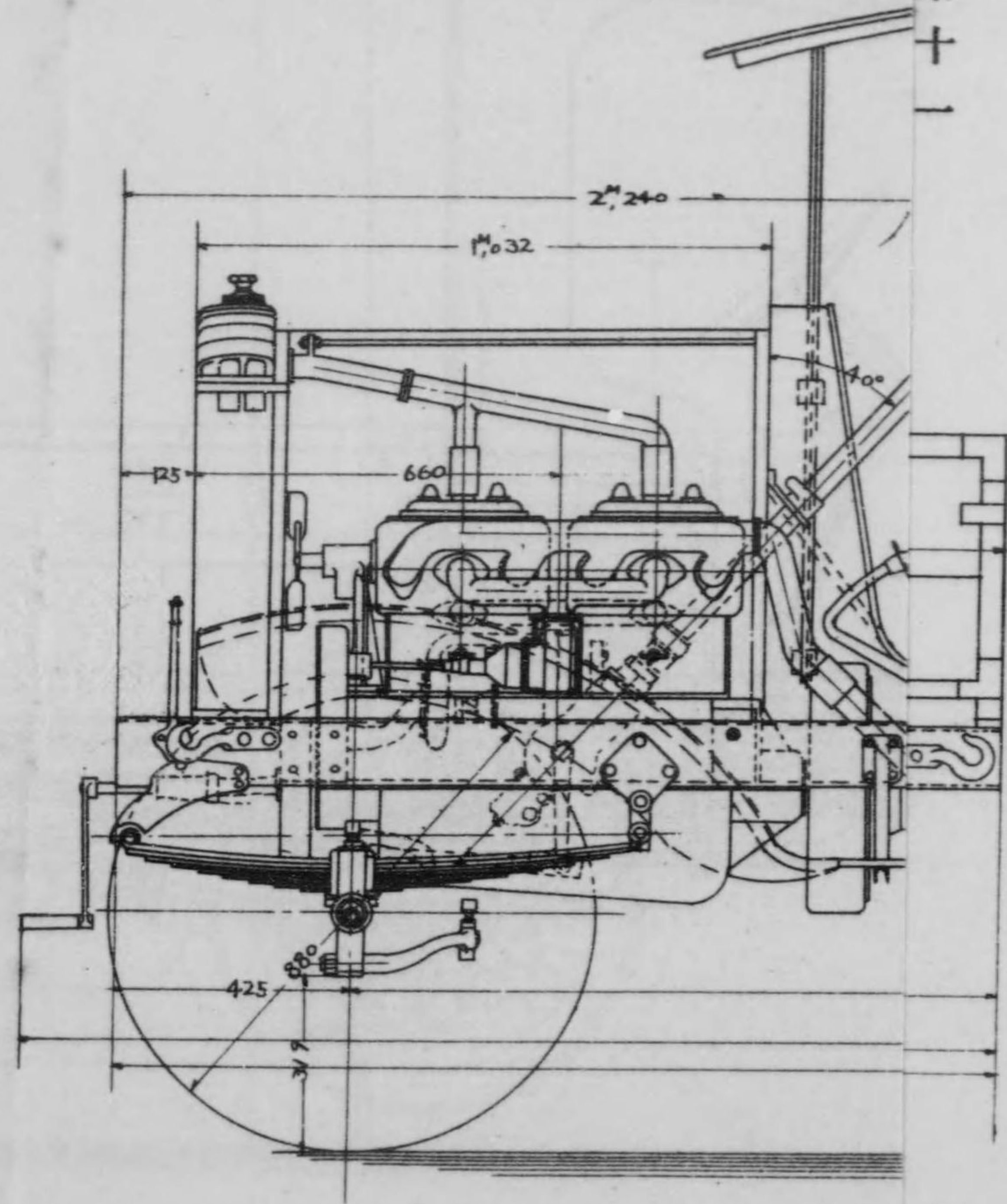
車貨動自 E. G. T.



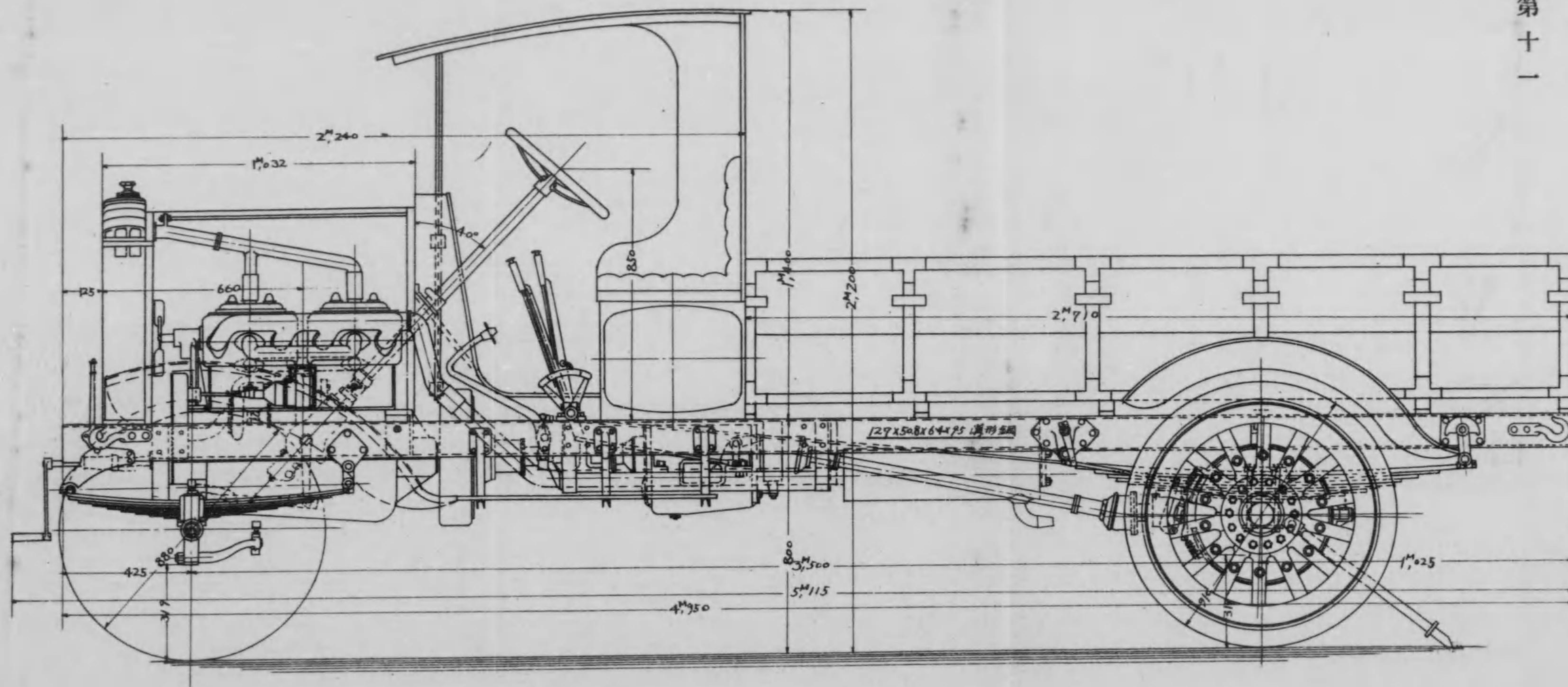
圖側左部關機同



附圖第十一





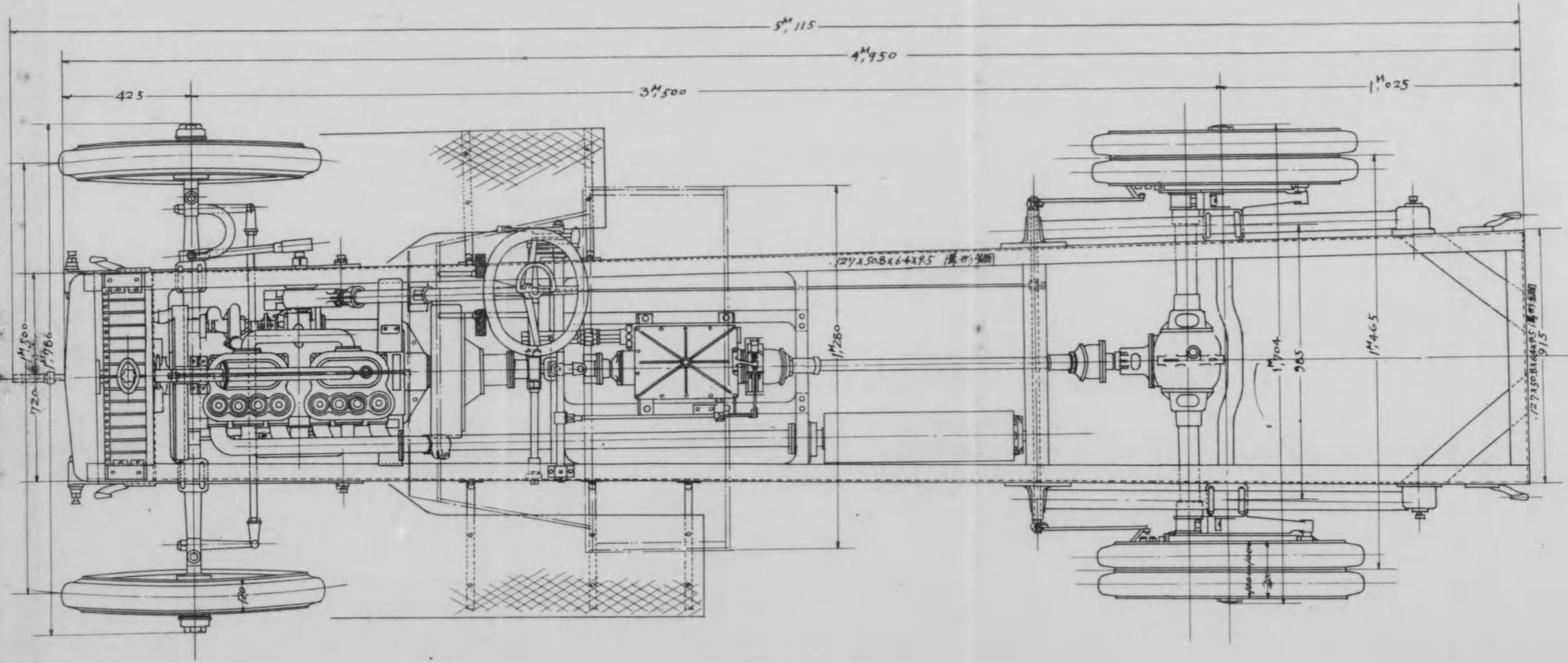


B型壹噸 積軍用保護自動車

側面圖

東京瓦斯電氣工業株式會社



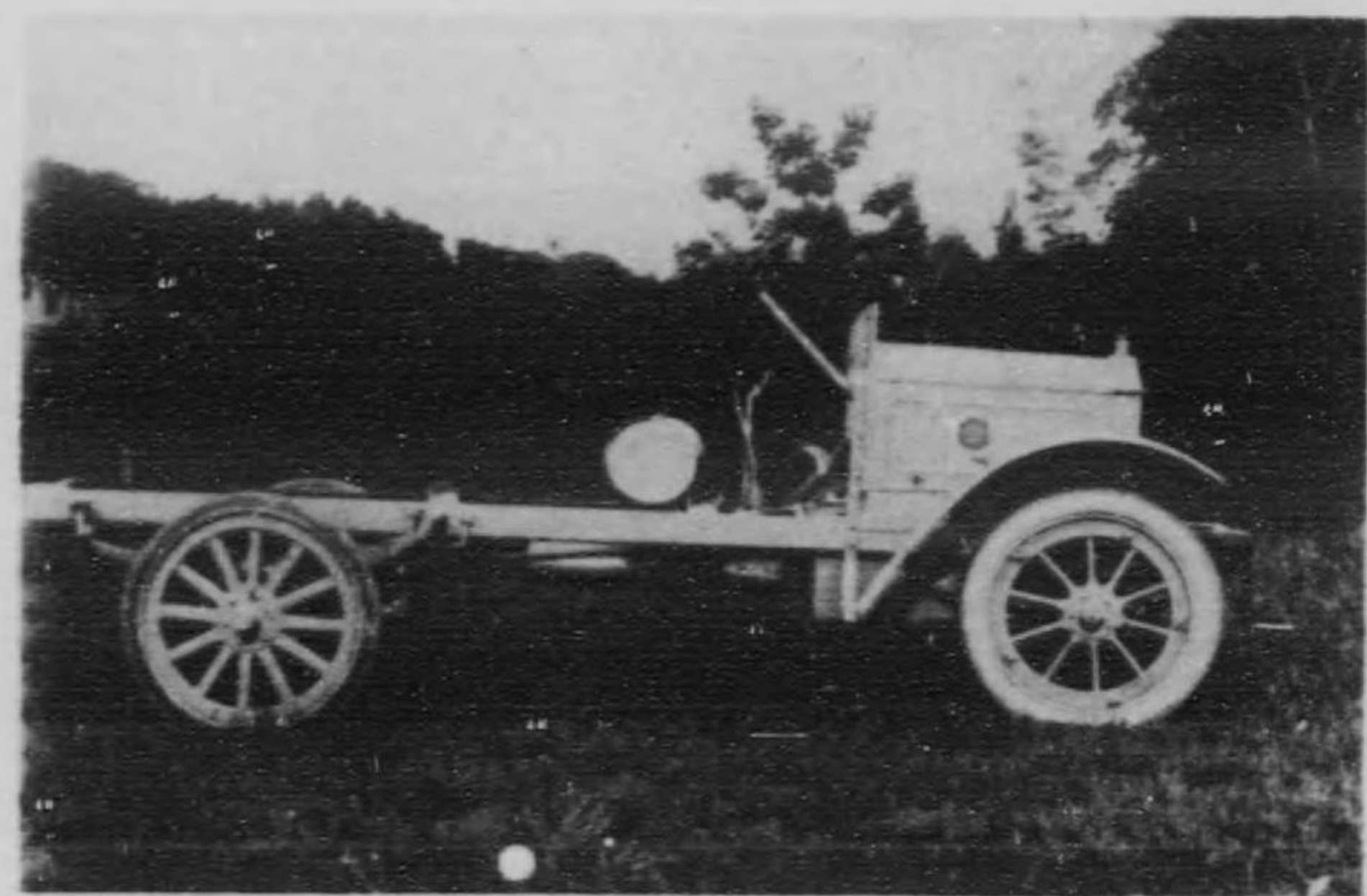


B型壹噸 積軍用保護自動車  
平面圖

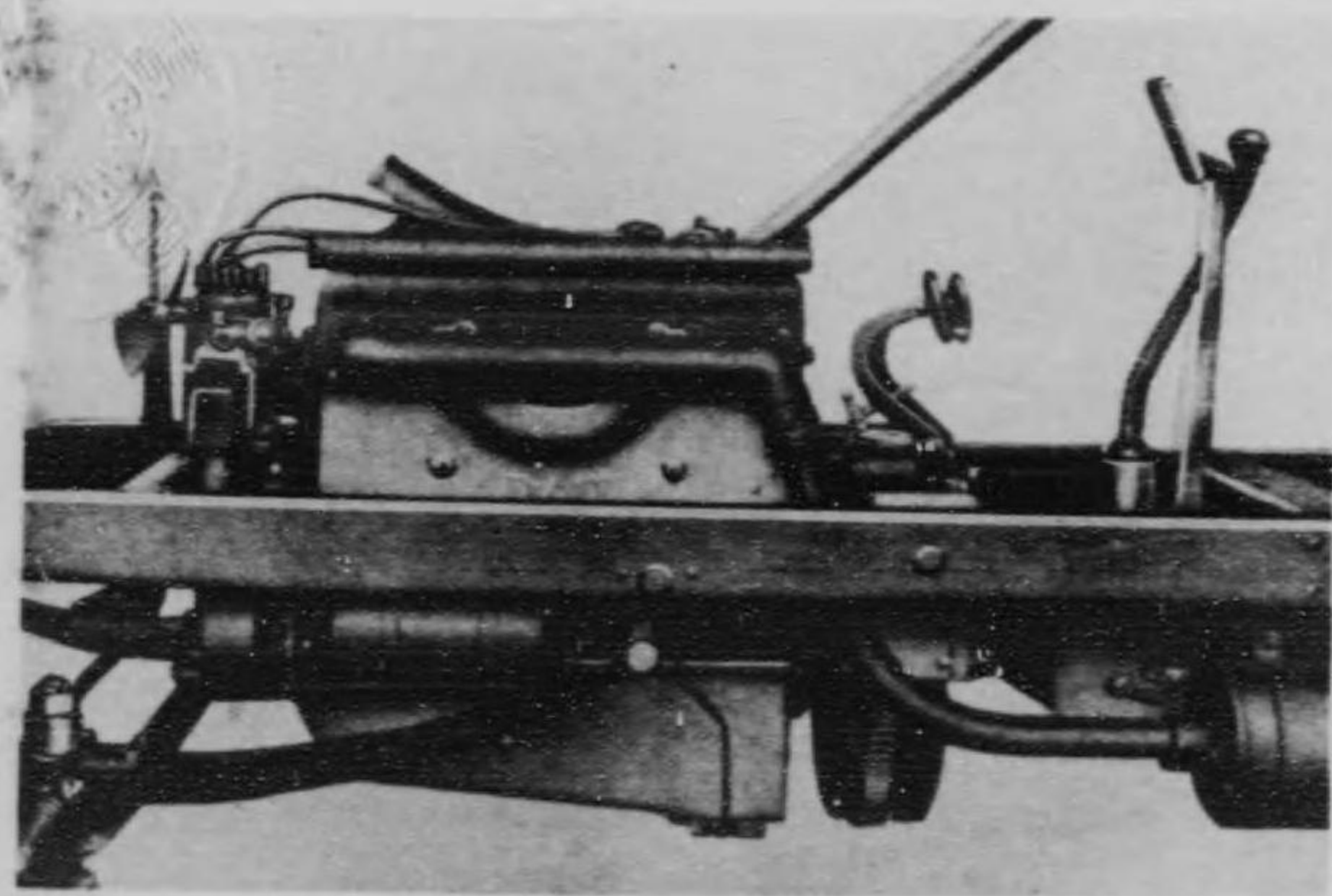
東京瓦斯電氣工業株式會社



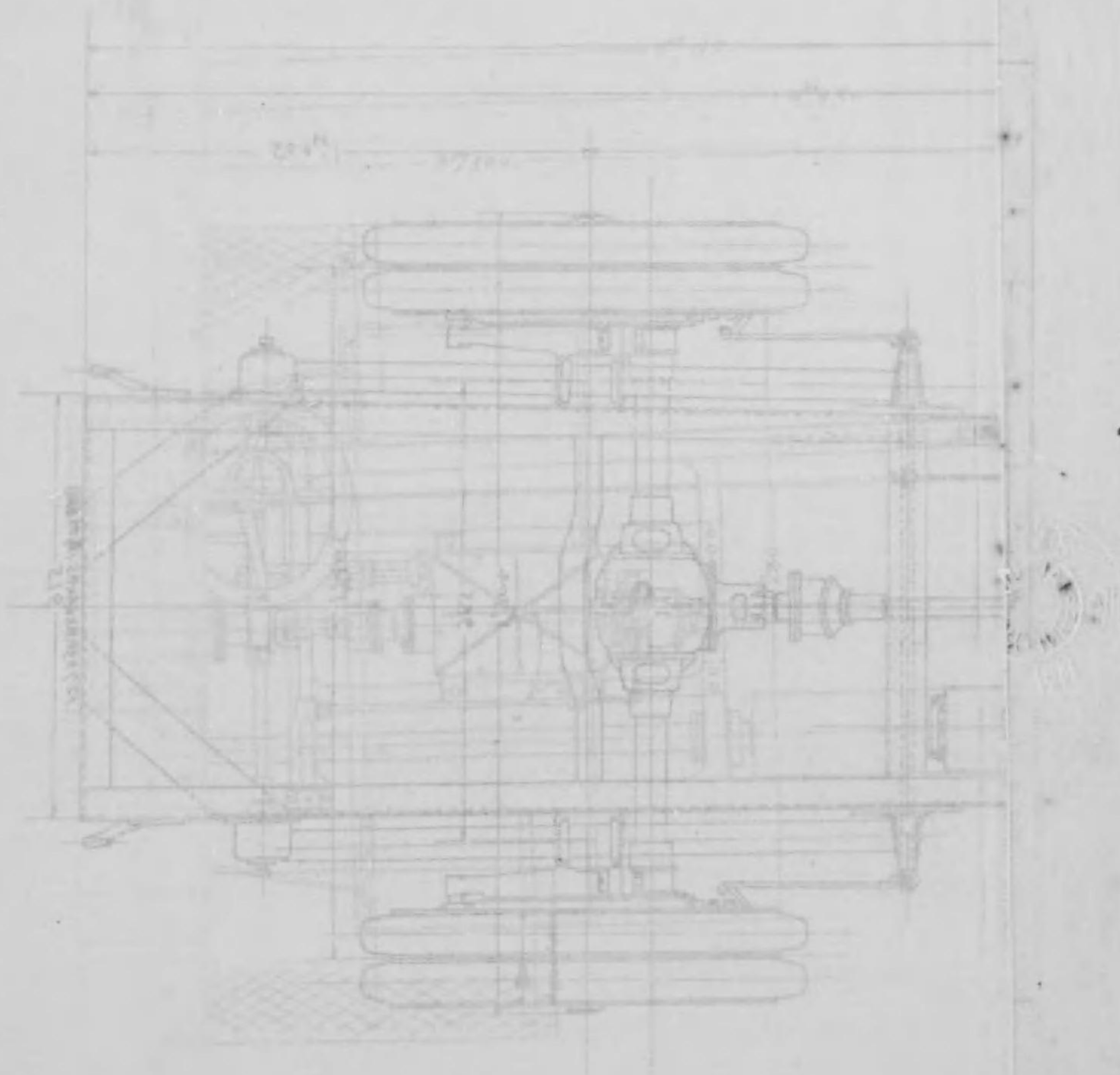
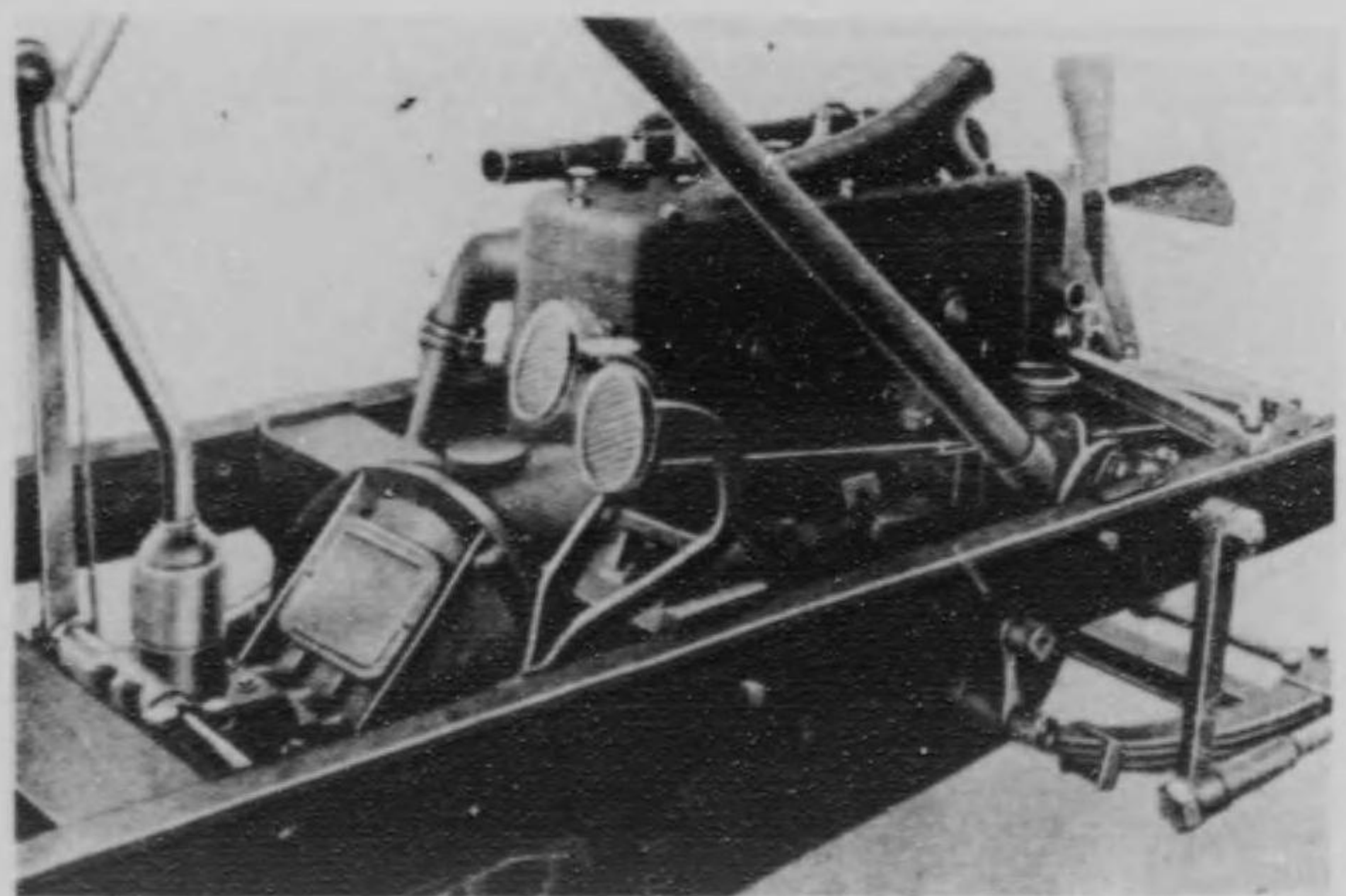
ダット四分ノ三噸自動貨車



同機關部左側圖



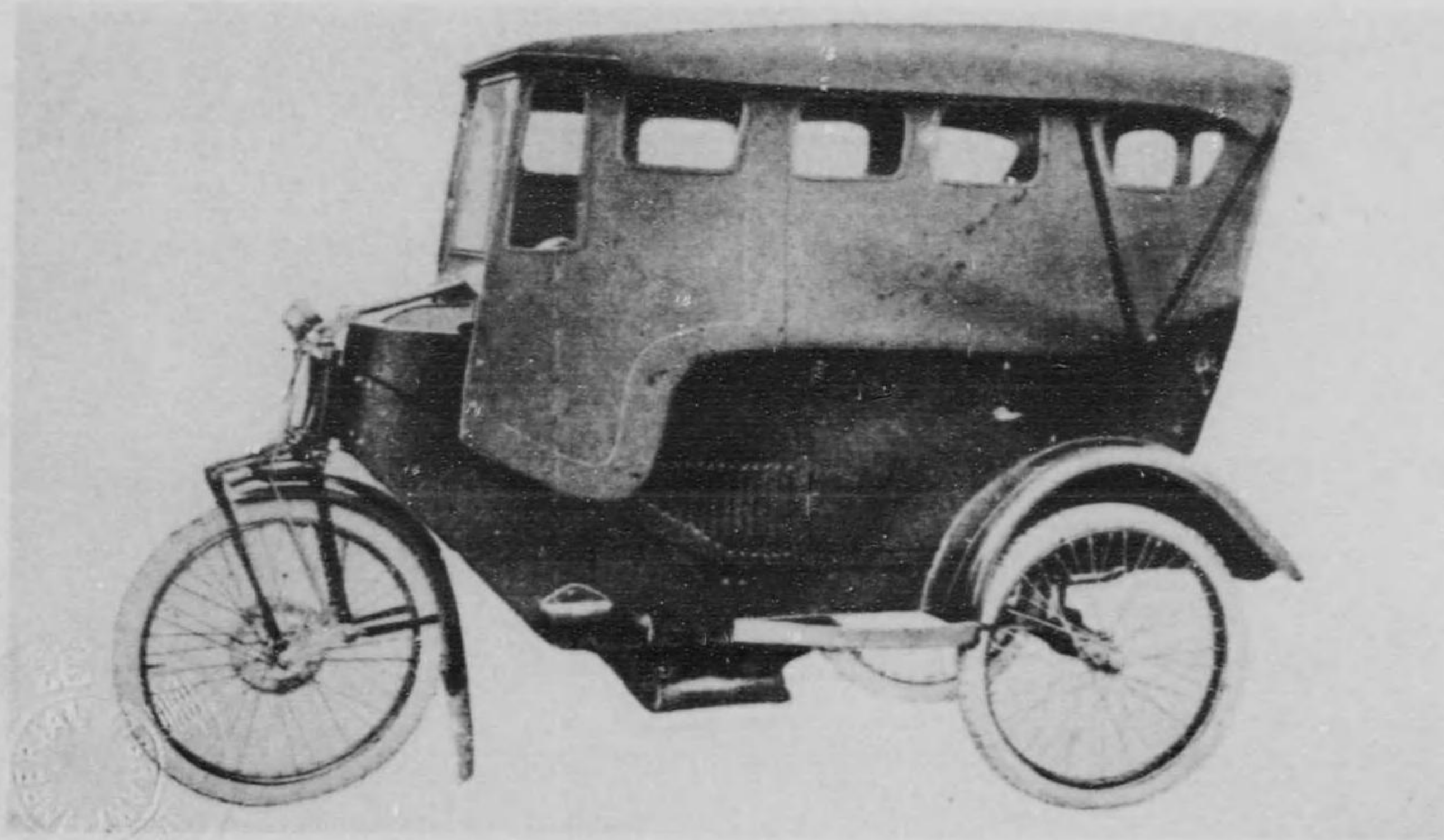
同機關部右側圖



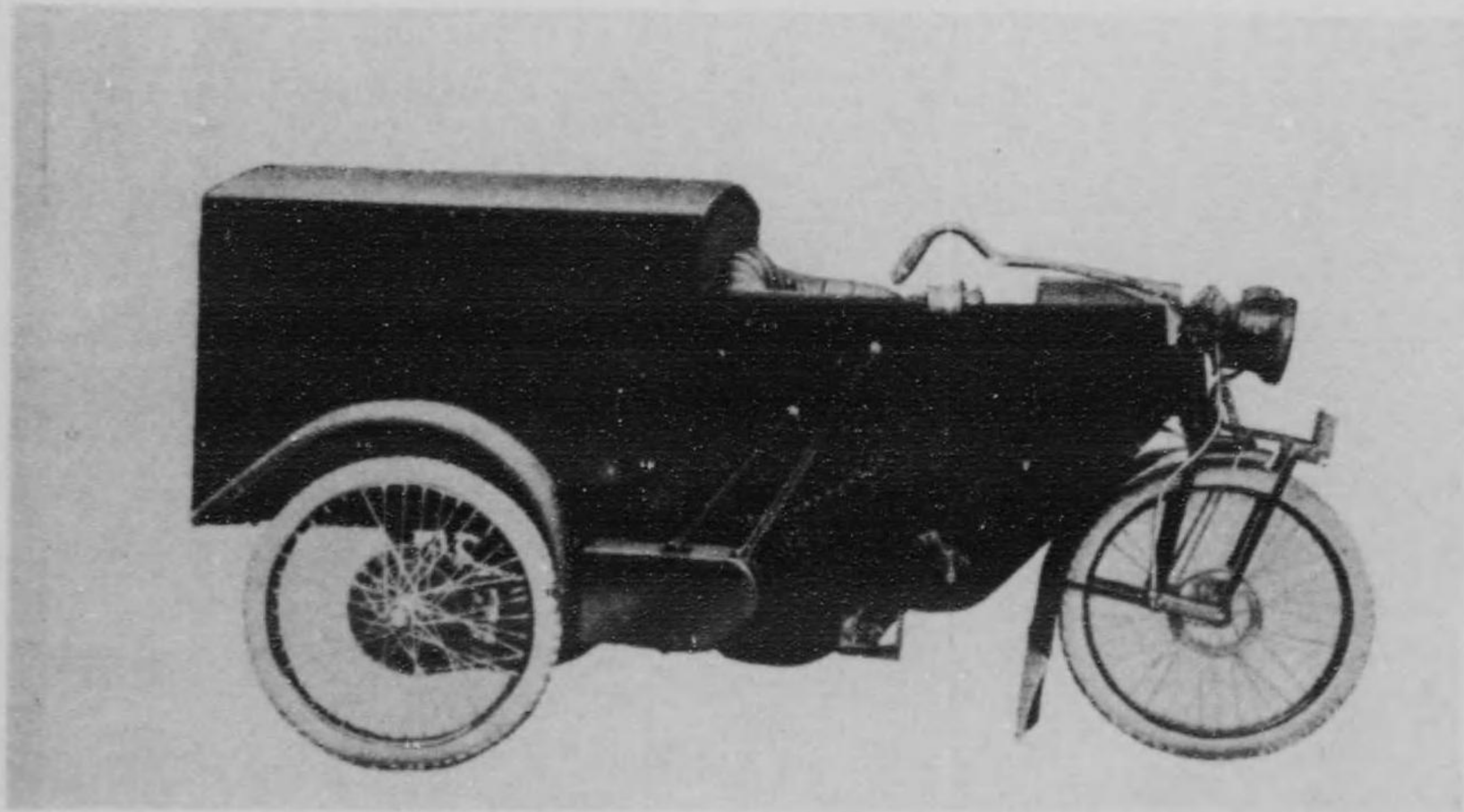
名譽受敬 精軍用保通自動車  
二 部 圖

東京瓦斯電氣工業株式會社





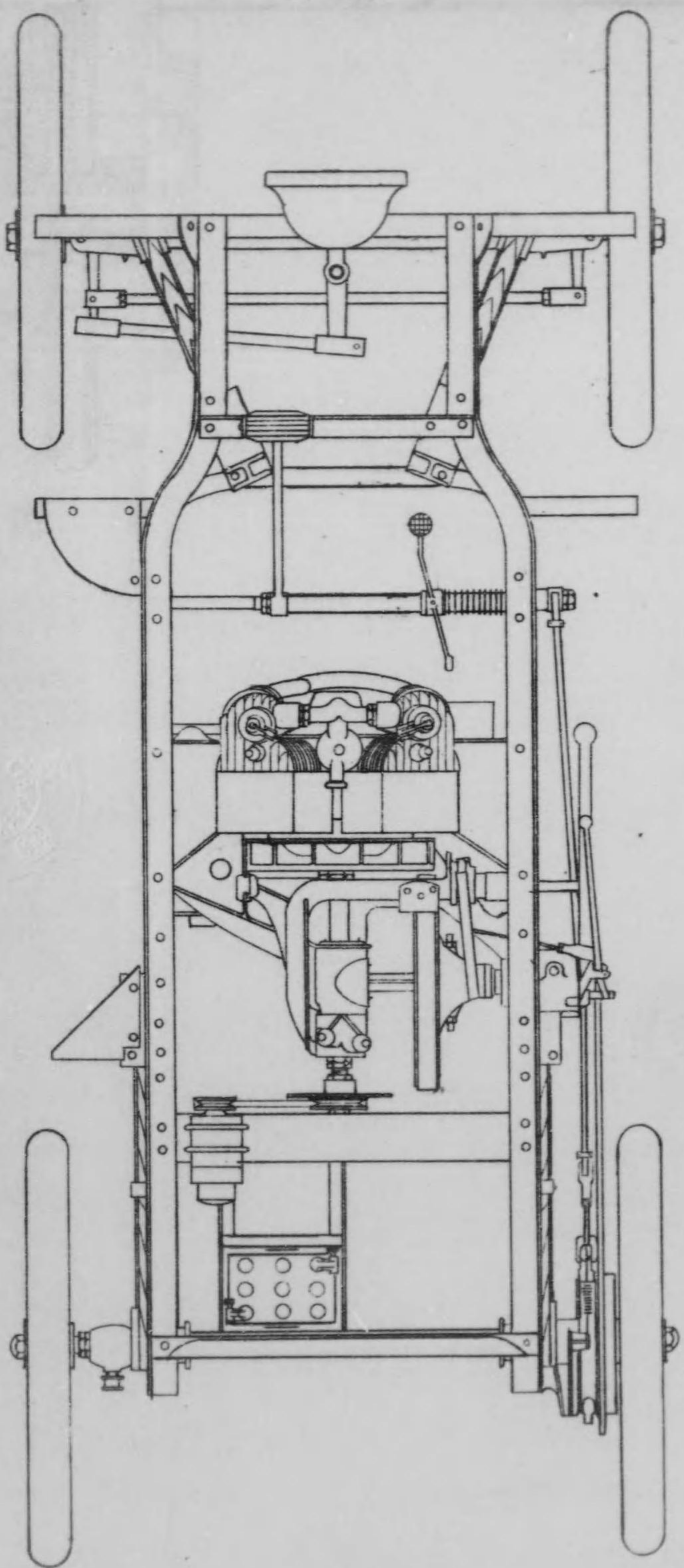
車動自用實ムハルゴ



(用搬運物貨)同







ゴルハハ△實用自動車車臺平面圖  
縮尺八分之壹

附圖第十八



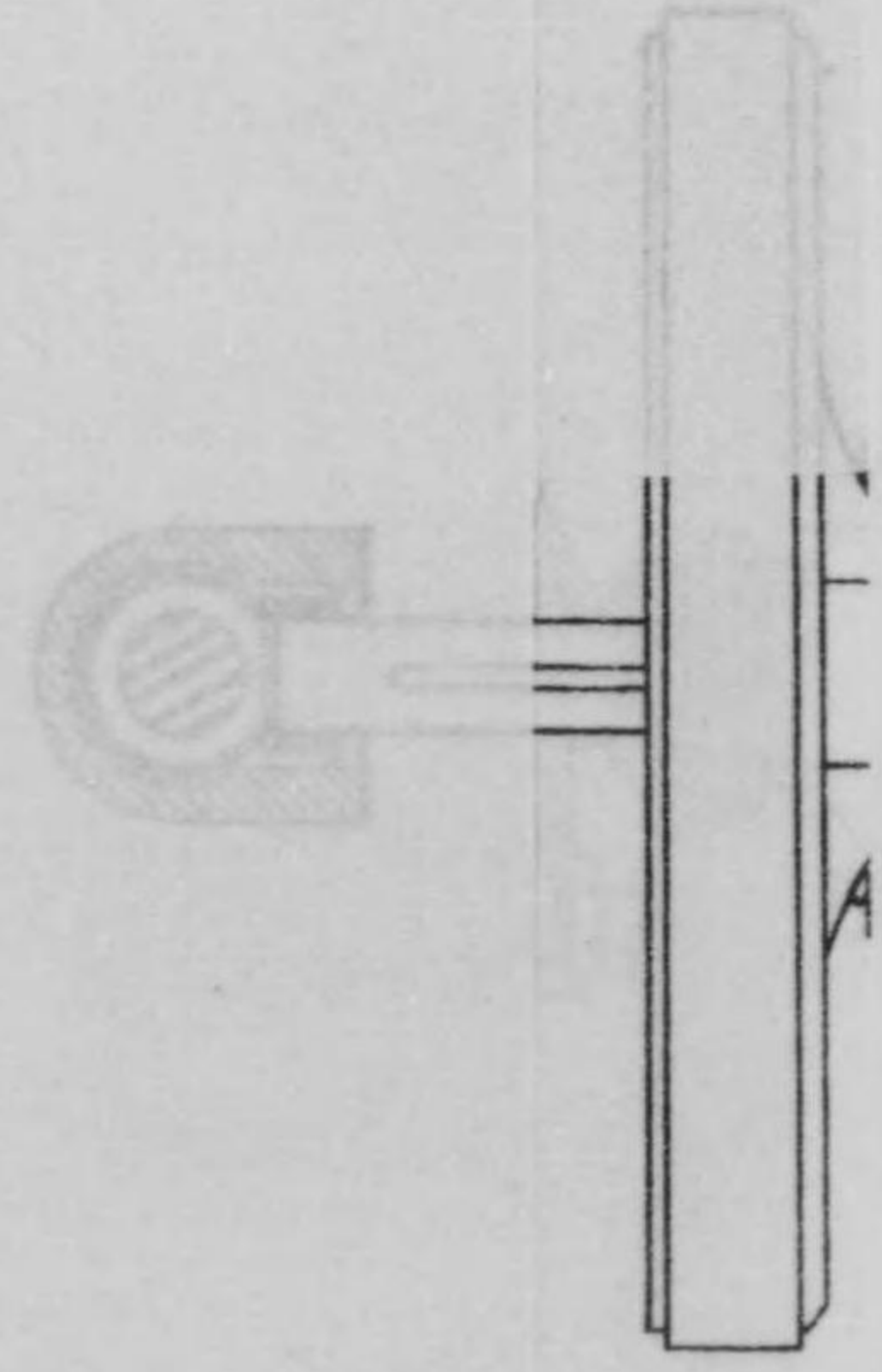
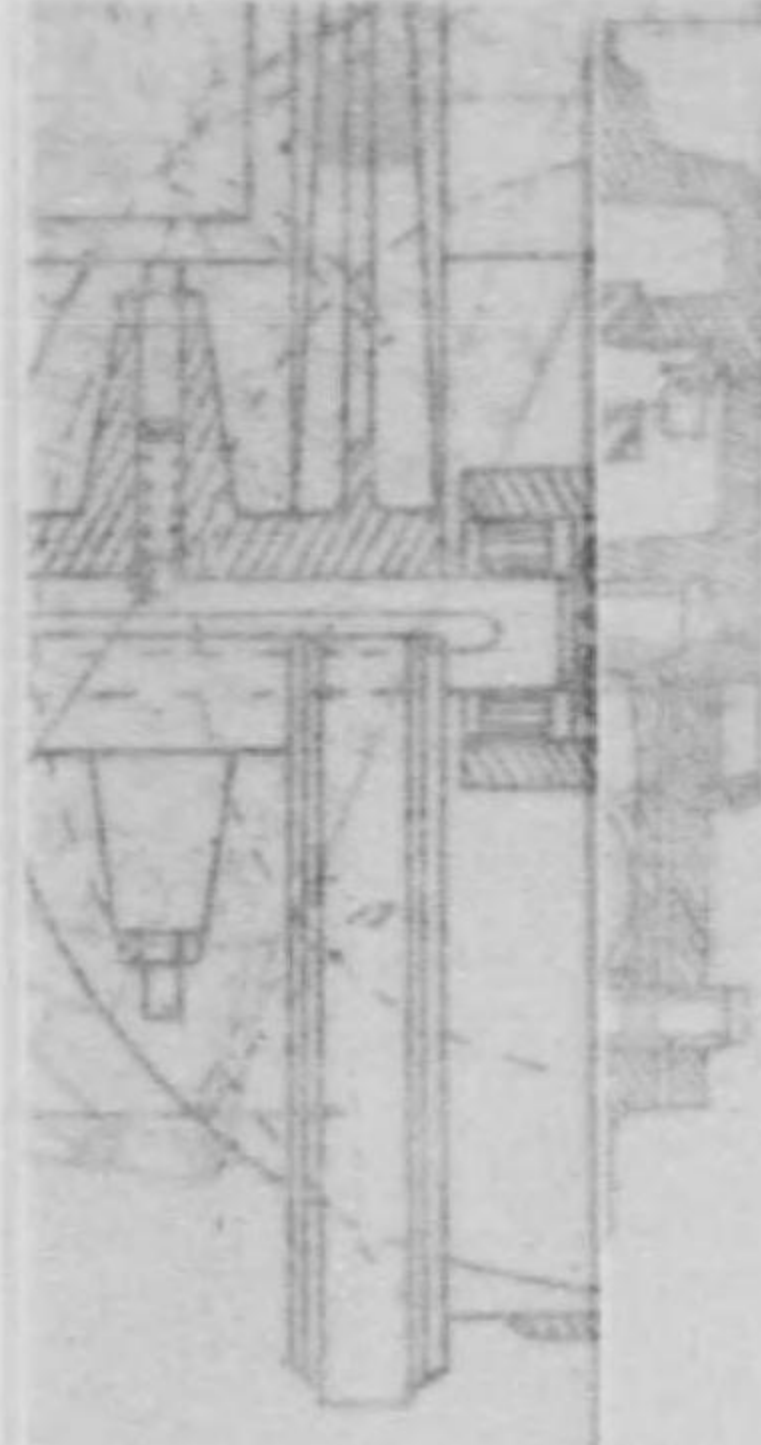
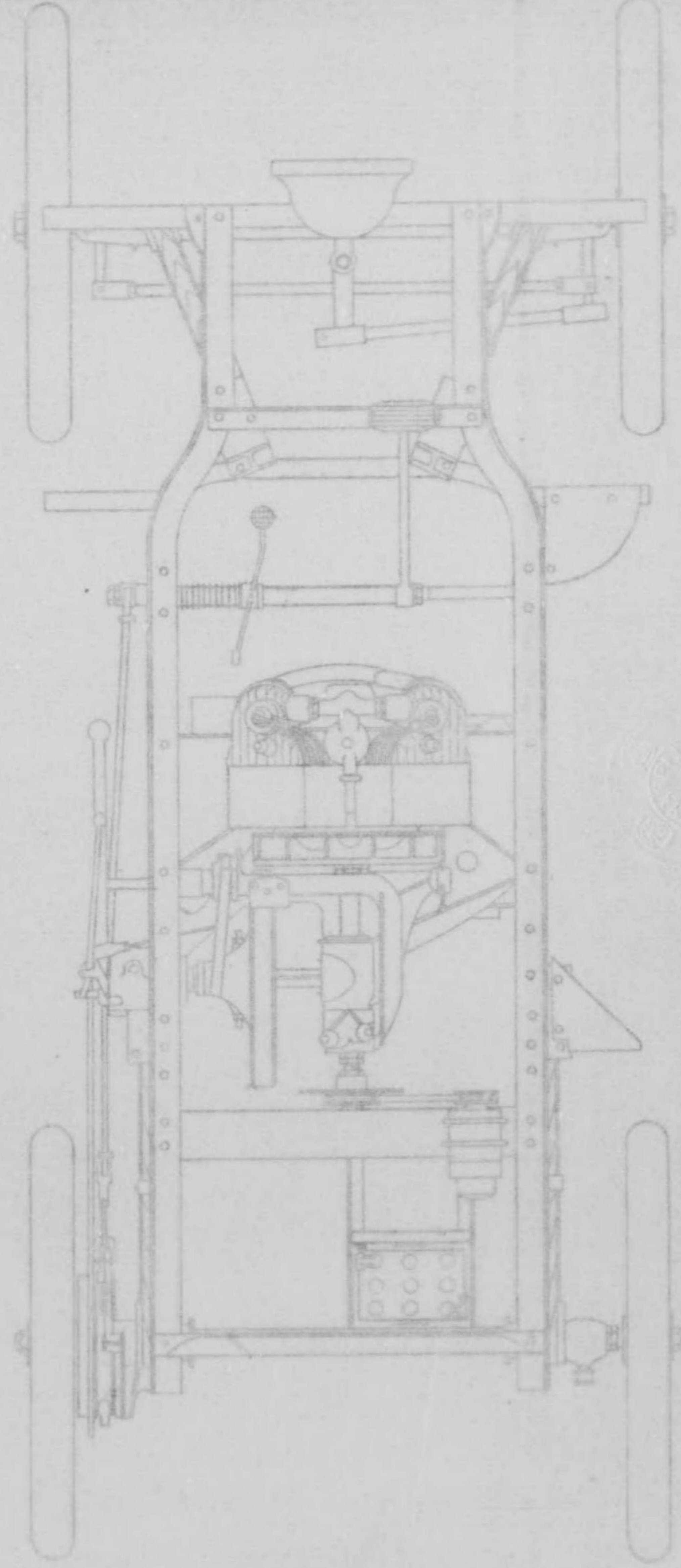


圖 樣 十 八

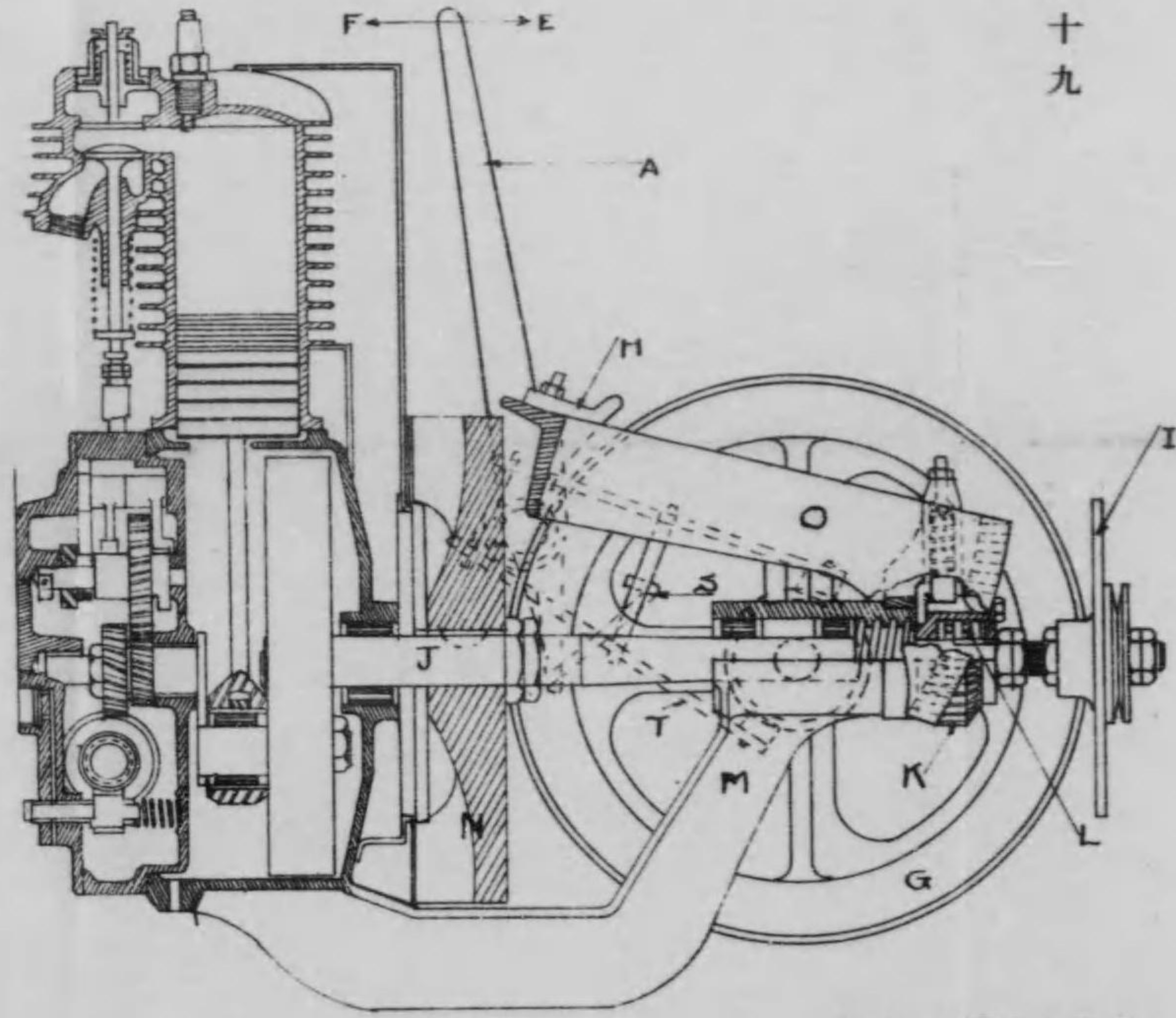
圖 面 平 臺 車 爐 自 用 實 八 八 八 八

登 之 表 八 只 器



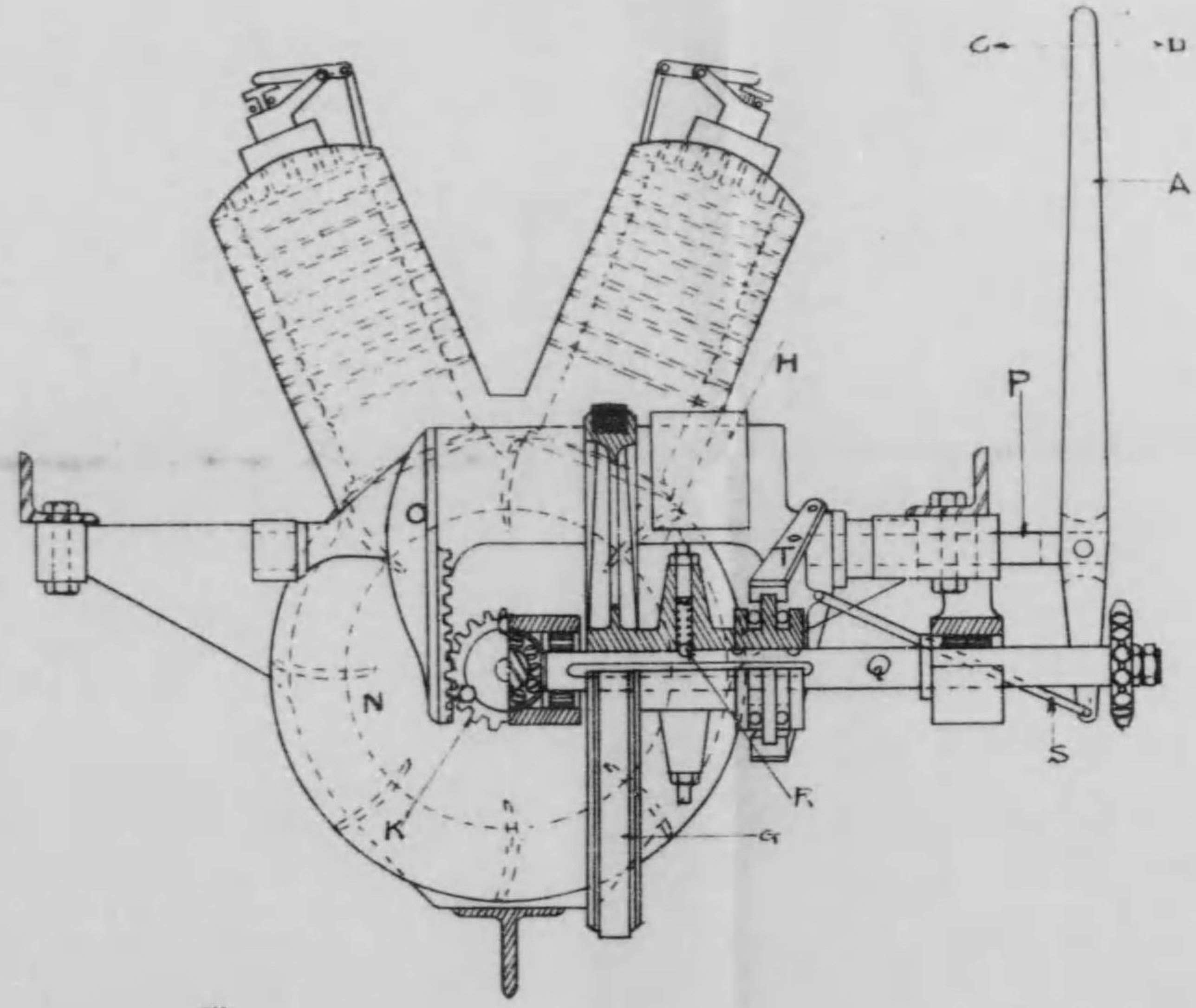


ゴルハム實用自動車發動機断面圖



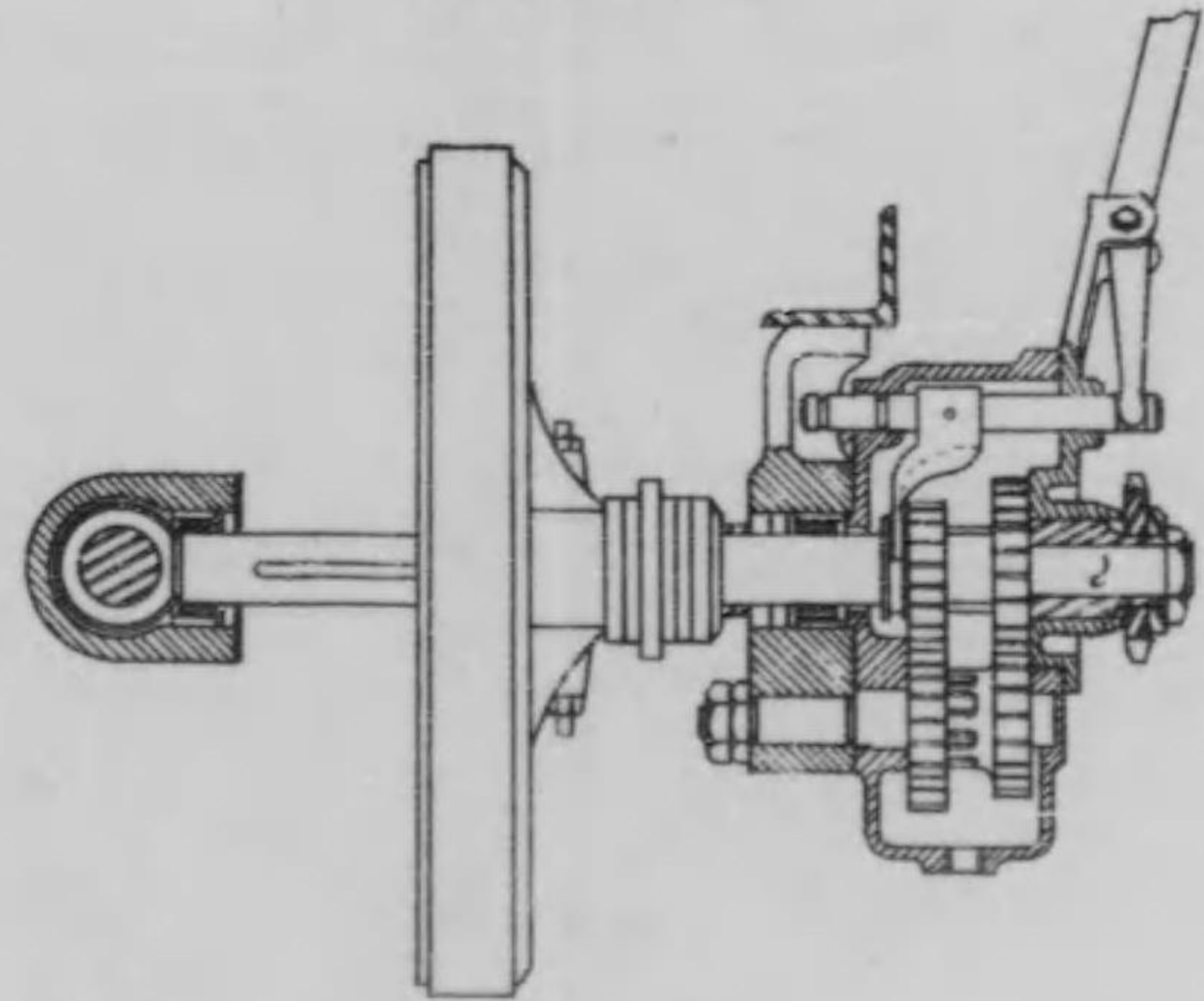
附圖第十九

背面圖



附圖第二十

ゴルハム實用自動車  
低速齒車圖  
低速裝置

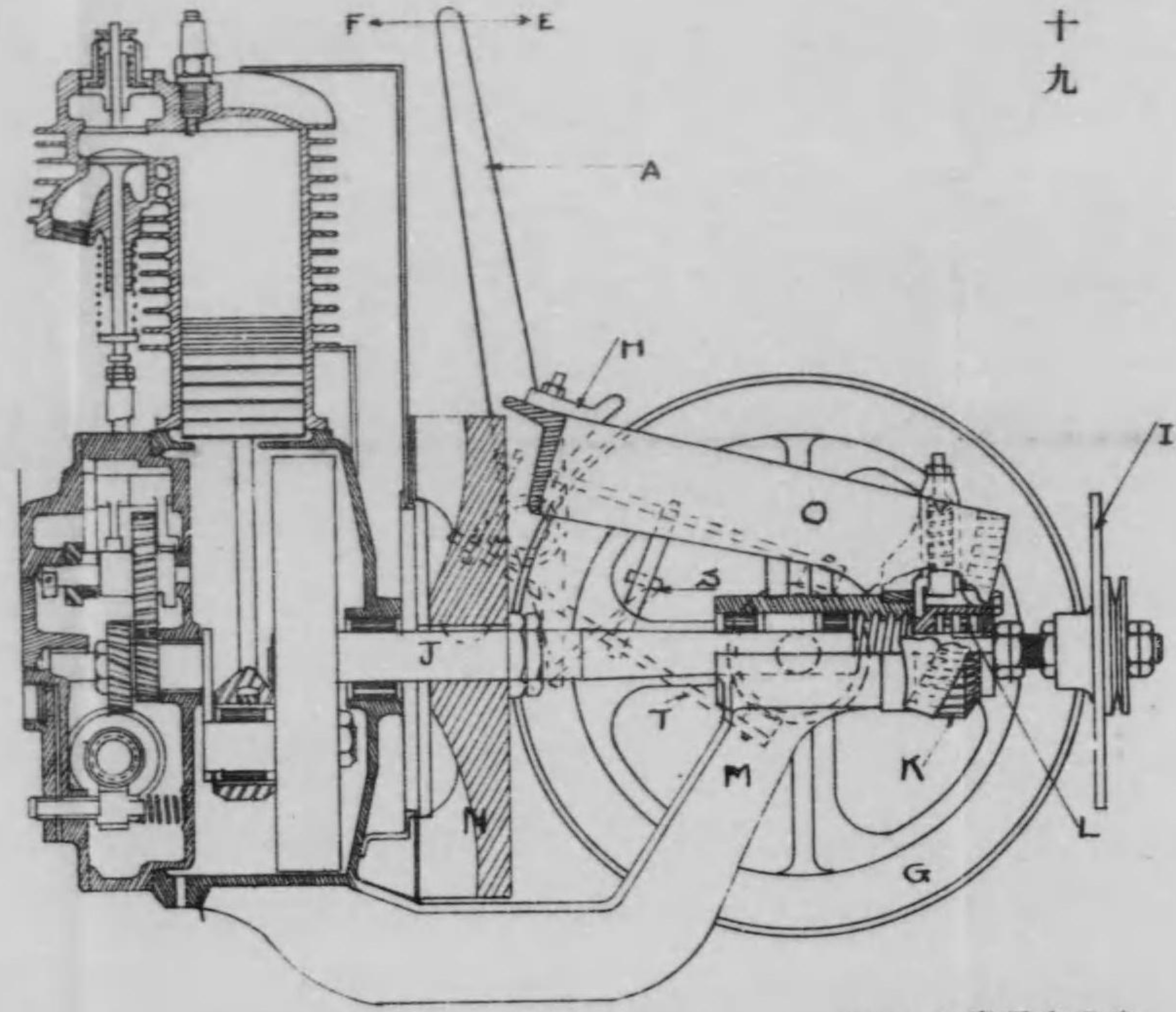


附圖第二十一



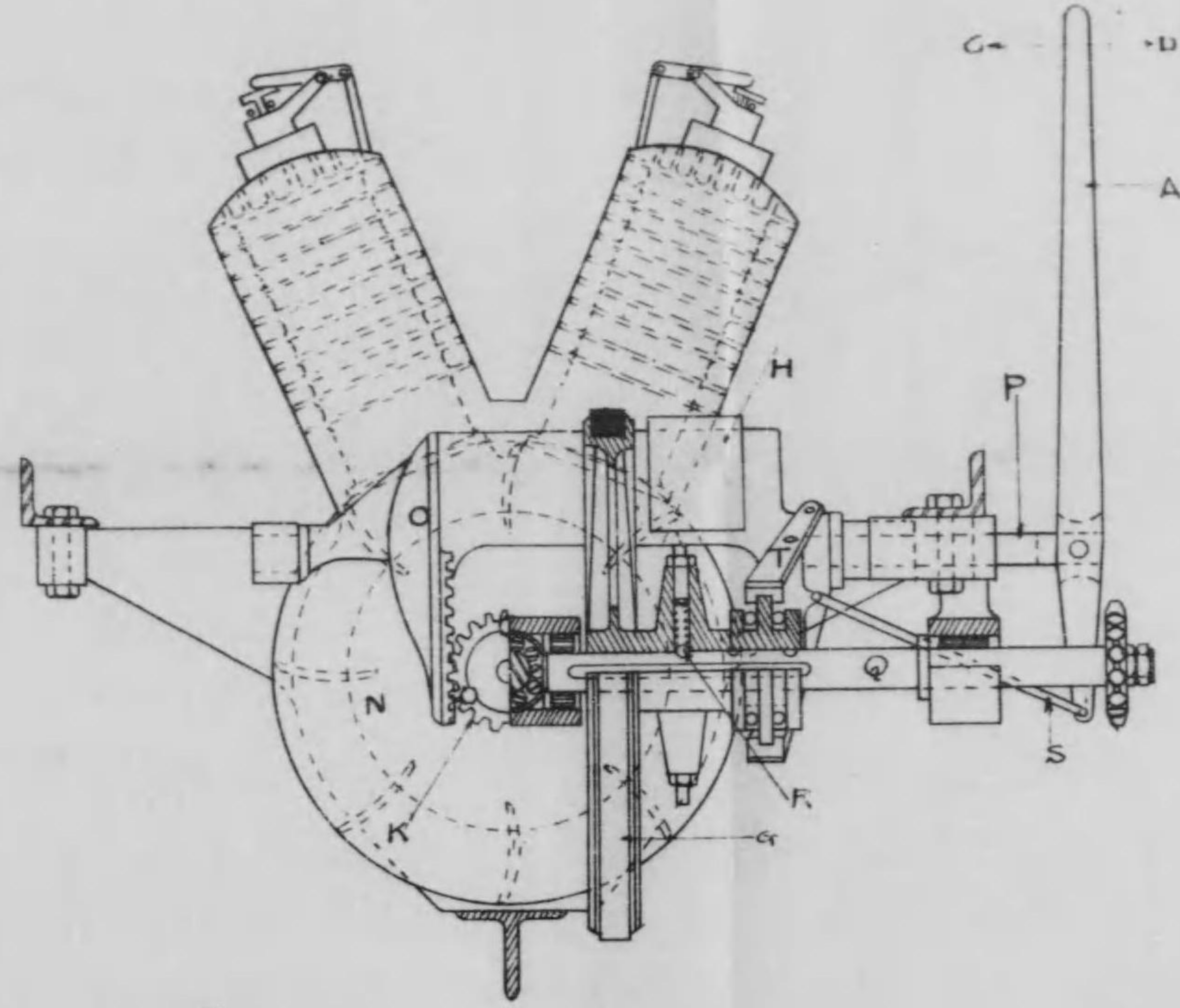


ゴルハム實用自動車發動機断面圖



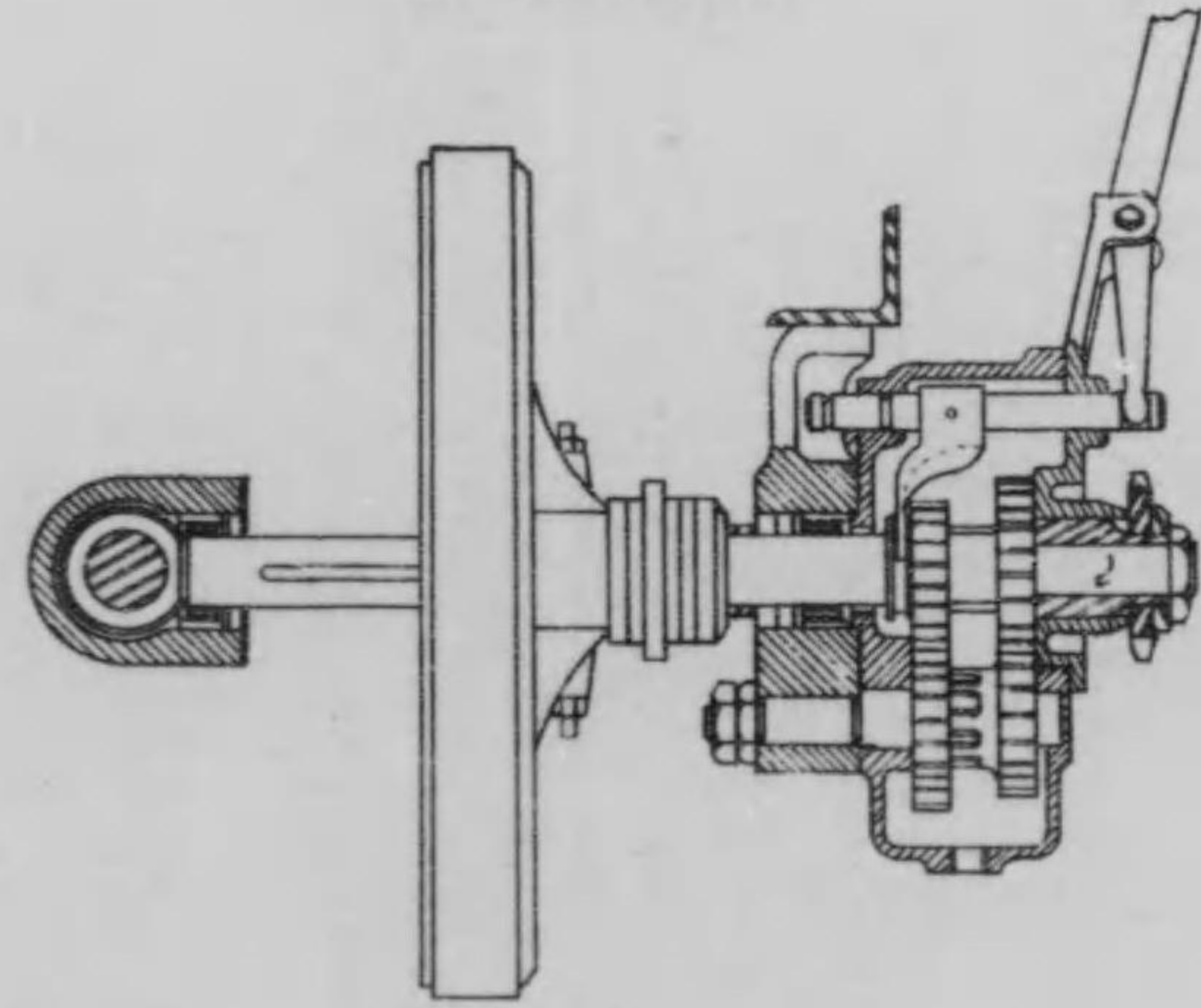
附圖第十九

背面圖



附圖第二十

ゴルハム實用自動車  
低速齒車圖  
低速裝置



附圖第二十一

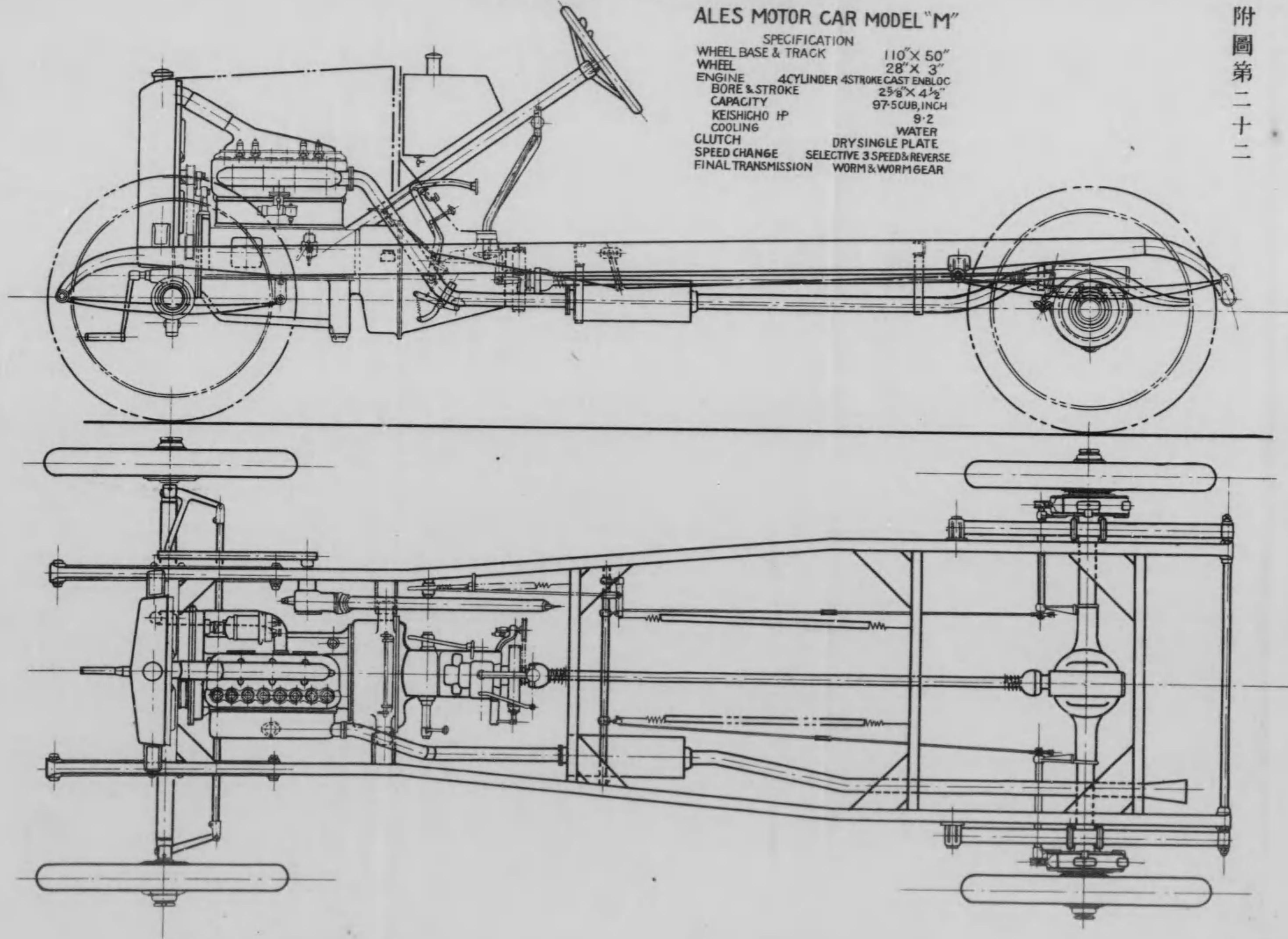


# 車動自用乘型中スレア

## ALES MOTOR CAR MODEL "M"

SPECIFICATION

WHEEL BASE & TRACK	110" X 50"
WHEEL	28" X 3"
ENGINE	4 CYLINDER 4 STROKE CAST ENBLOC
BORE & STROKE	2 5/8" X 4 1/2"
CAPACITY	97.5 CUB. INCH
KEISHICHO HP	9.2
COOLING	WATER
CLUTCH	DRY SINGLE PLATE
SPEED CHANGE	SELECTIVE 3 SPEED & REVERSE
FINAL TRANSMISSION	WORM & WORM GEAR

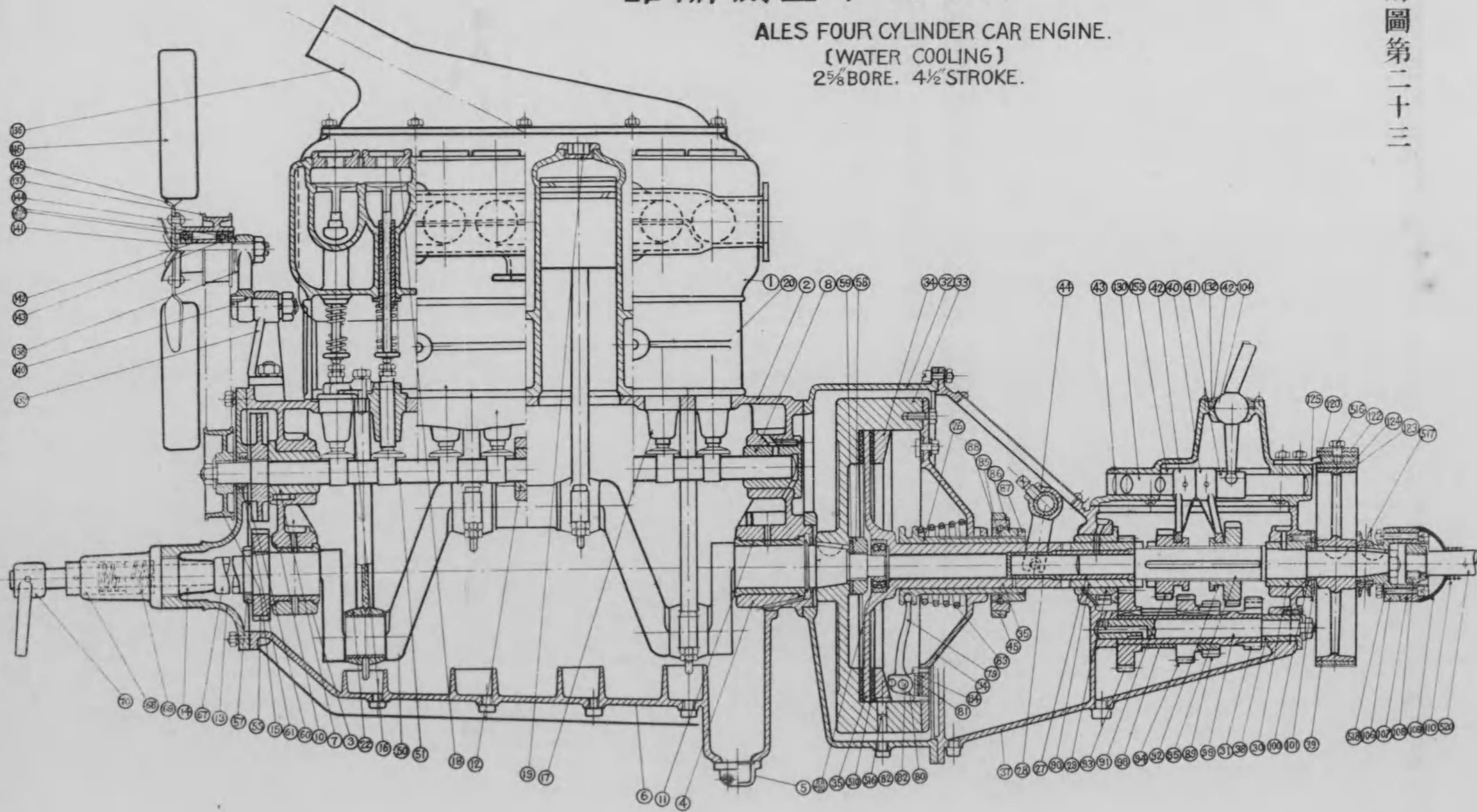




# 部關機型中スレア

ALES FOUR CYLINDER CAR ENGINE.  
[WATER COOLING]  
2 $\frac{5}{8}$ " BORE. 4 $\frac{1}{2}$ " STROKE.

附圖第二十三



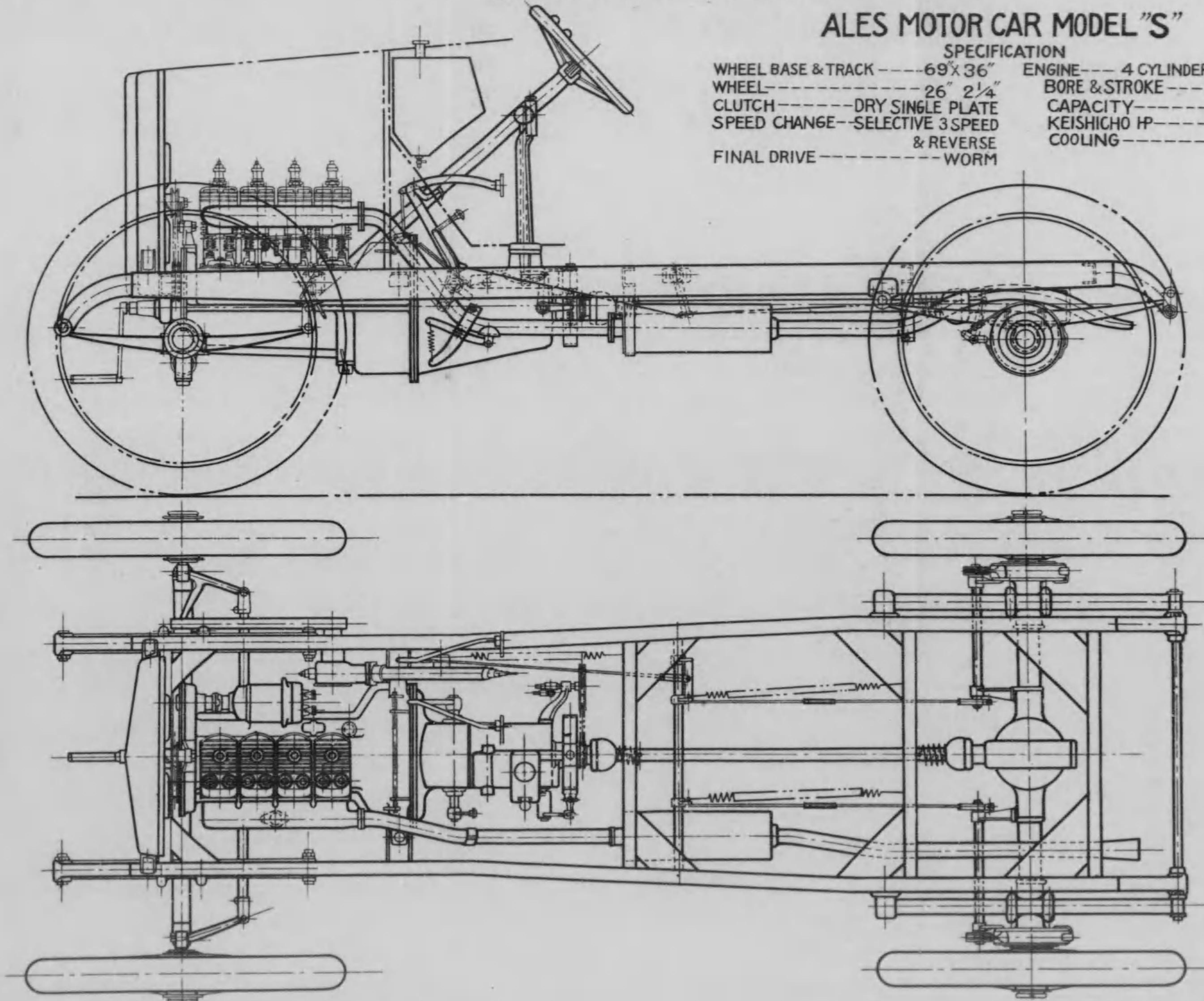


# 車動自用乘型小スレア

## ALES MOTOR CAR MODEL "S"

### SPECIFICATION

WHEEL BASE & TRACK	---69" x 36"	ENGINE	---4 CYLINDER 4 STROKE
WHEEL	---26" 2 1/4"	BORE & STROKE	---2 1/4 x 3"
CLUTCH	---DRY SINGLE PLATE	CAPACITY	---47.8 CUB. INCH
SPEED CHANGE	---SELECTIVE 3 SPEED & REVERSE	KEISHICHO HP	---6.75
FINAL DRIVE	---WORM	COOLING	---AIR





部 關 機 型 小 ス レ ア  
 ALES FOUR CYLINDER CAR ENGINE.  
 [AIR COOLING]  
 2 1/4" BORE. 3" STROKE.

附 圖 第 二 十 五

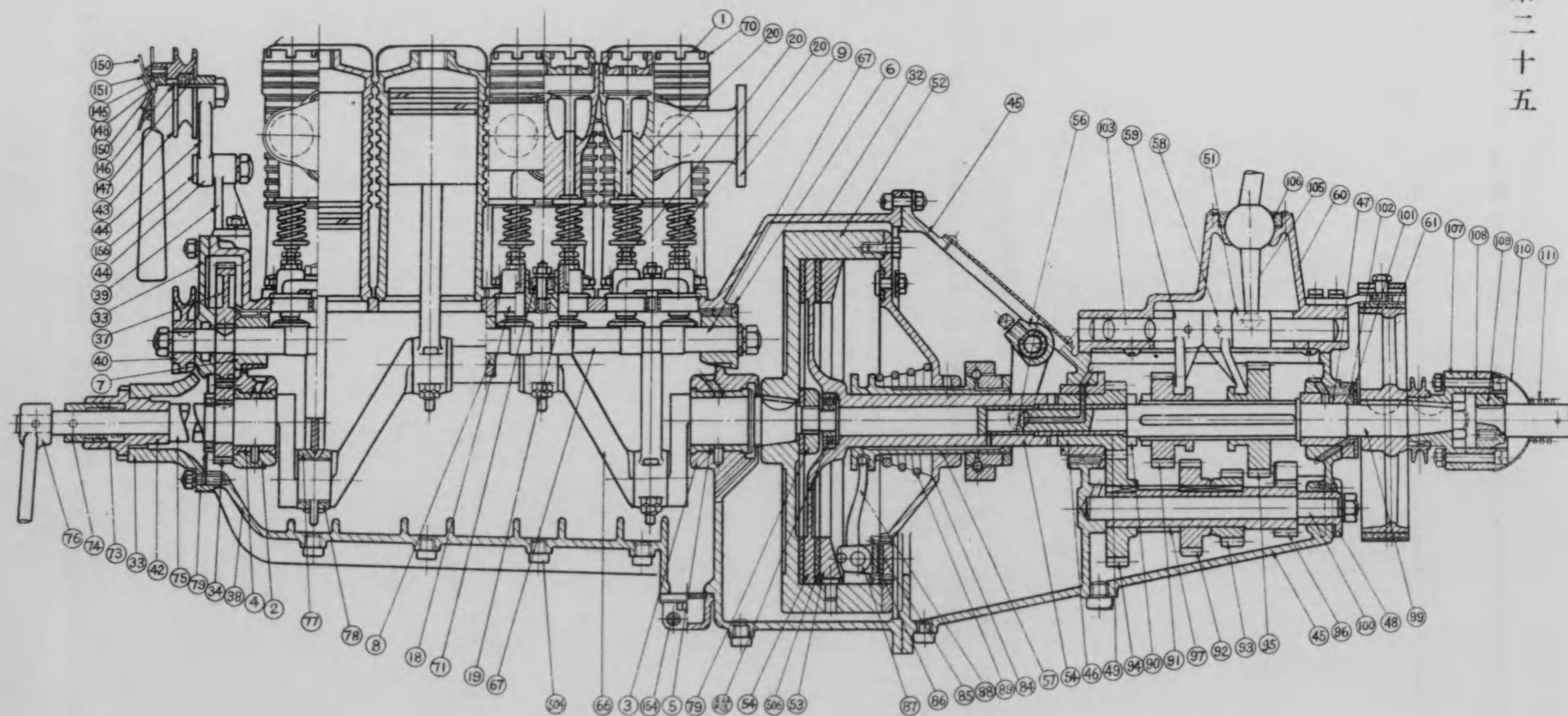
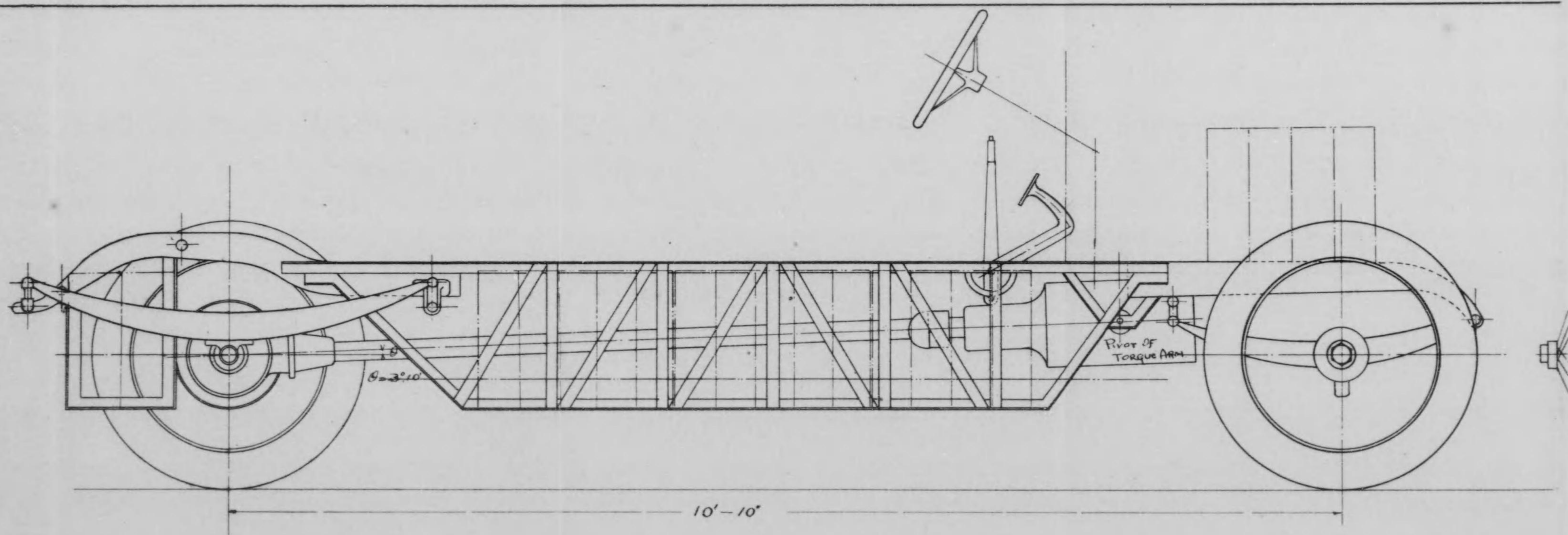




圖 般 一 構 車 「コ ル テ」

附圖第二十六

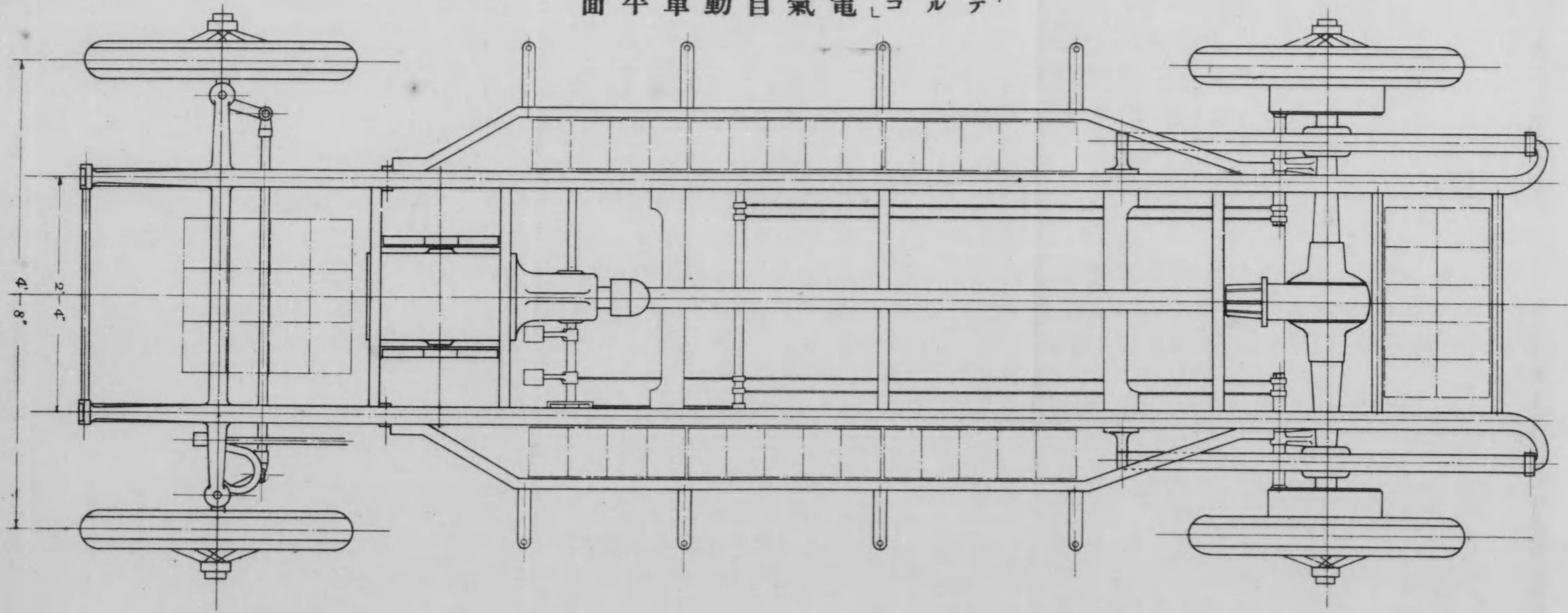


附圖第二十五





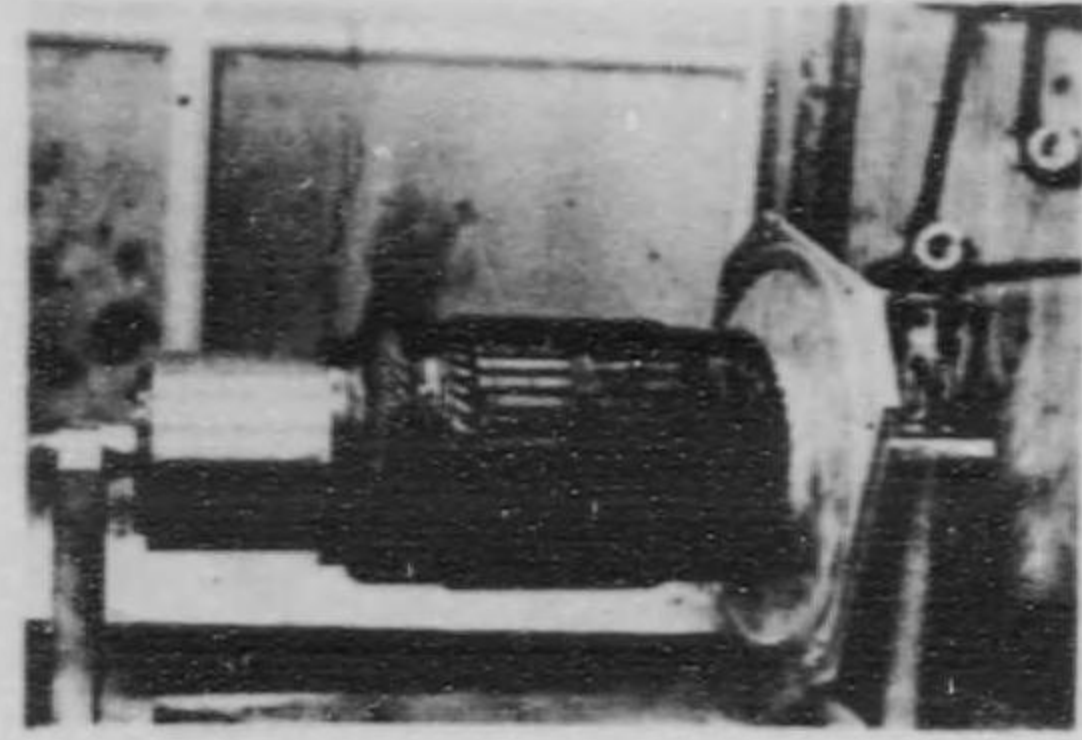
テコル電気自動車平面



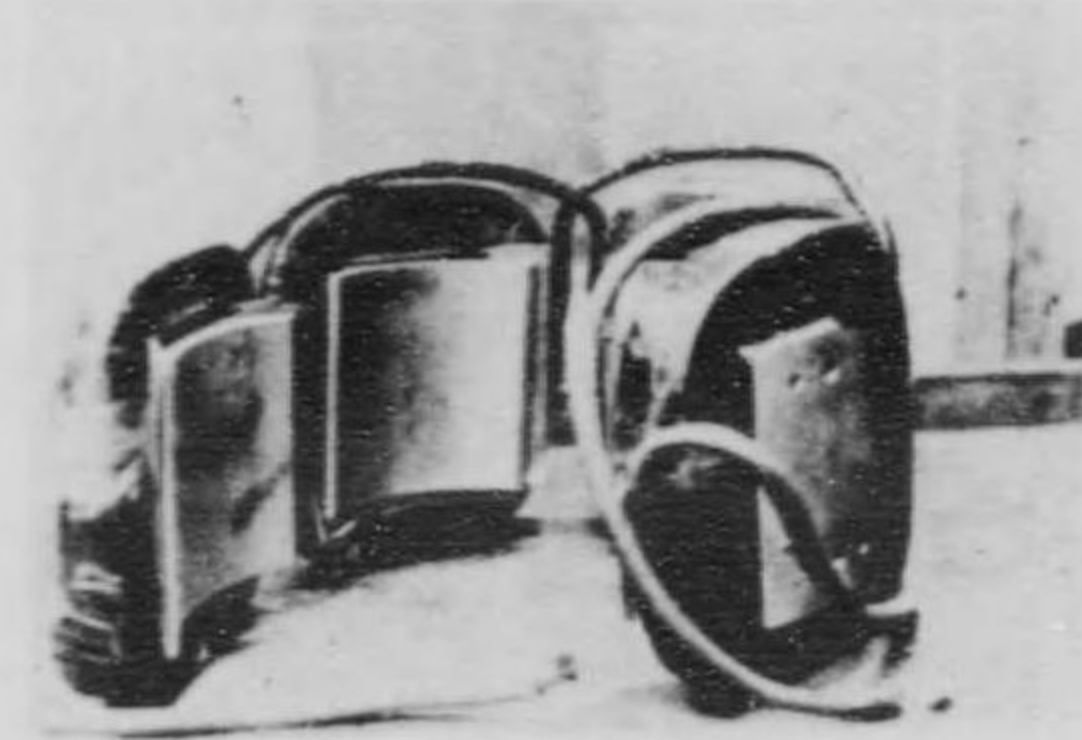
附圖第二十七



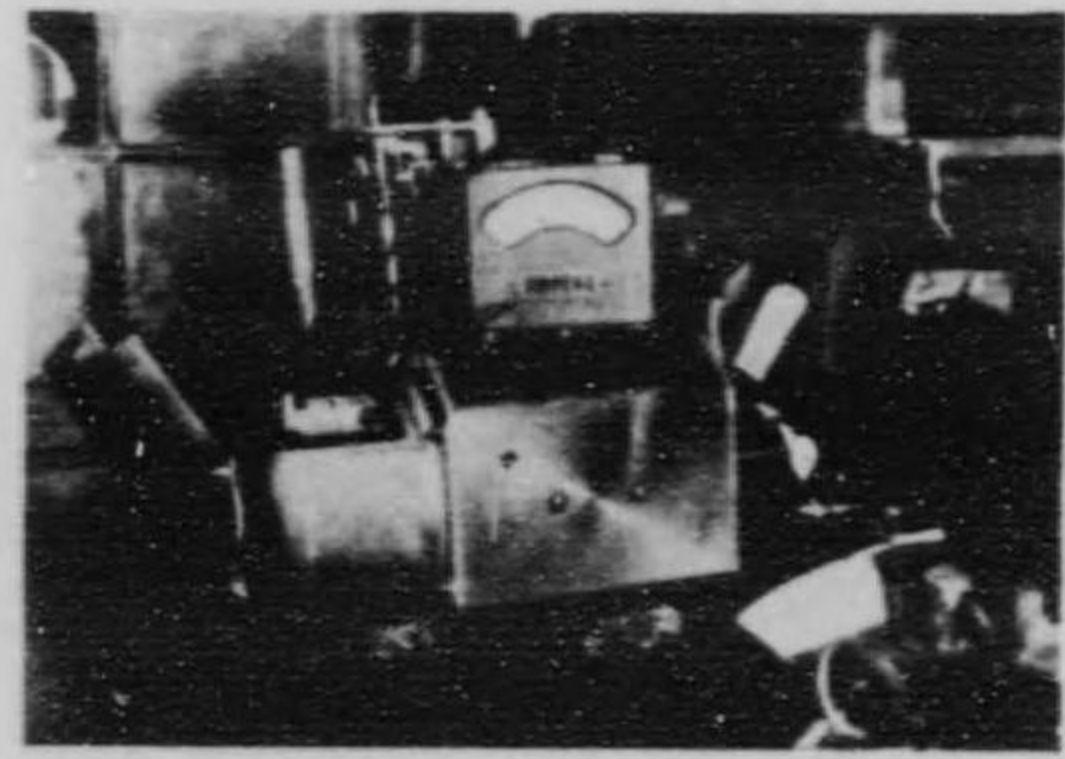
機動電[コルテ]



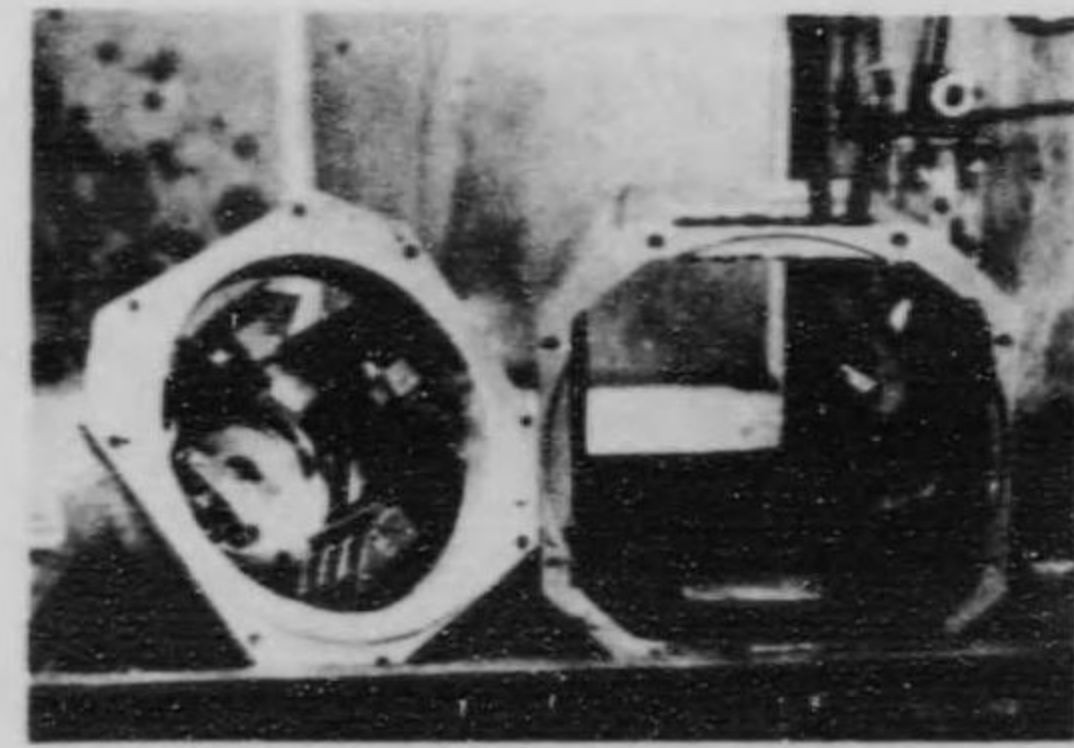
二 其



一 其

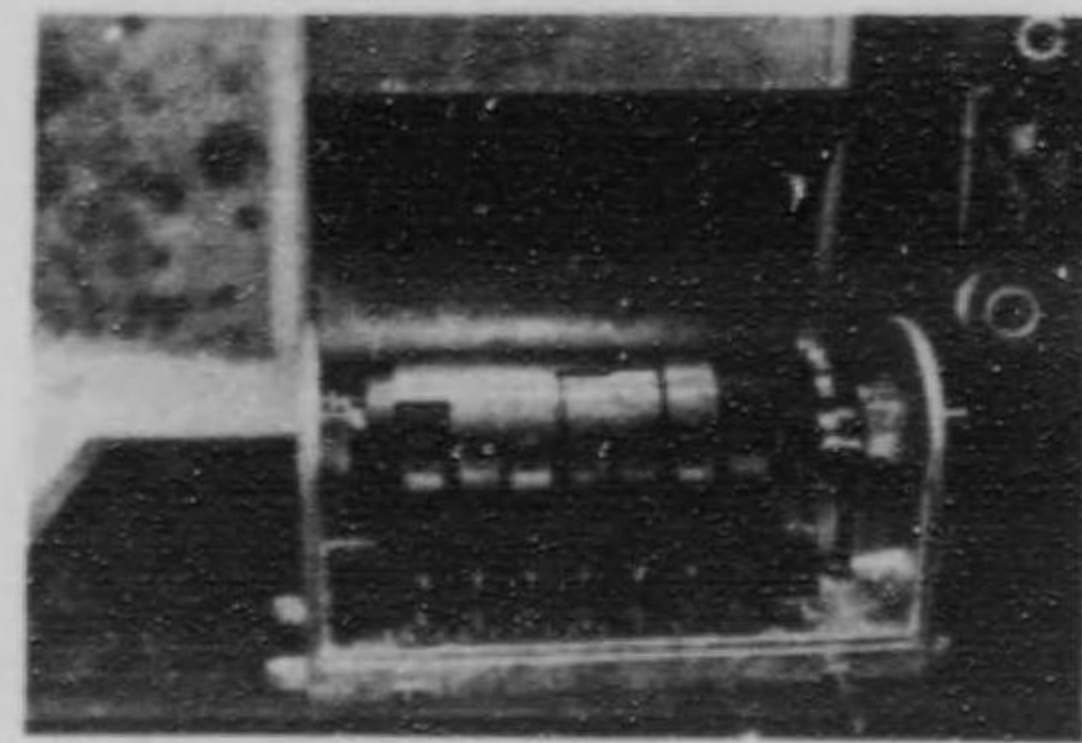


四 其



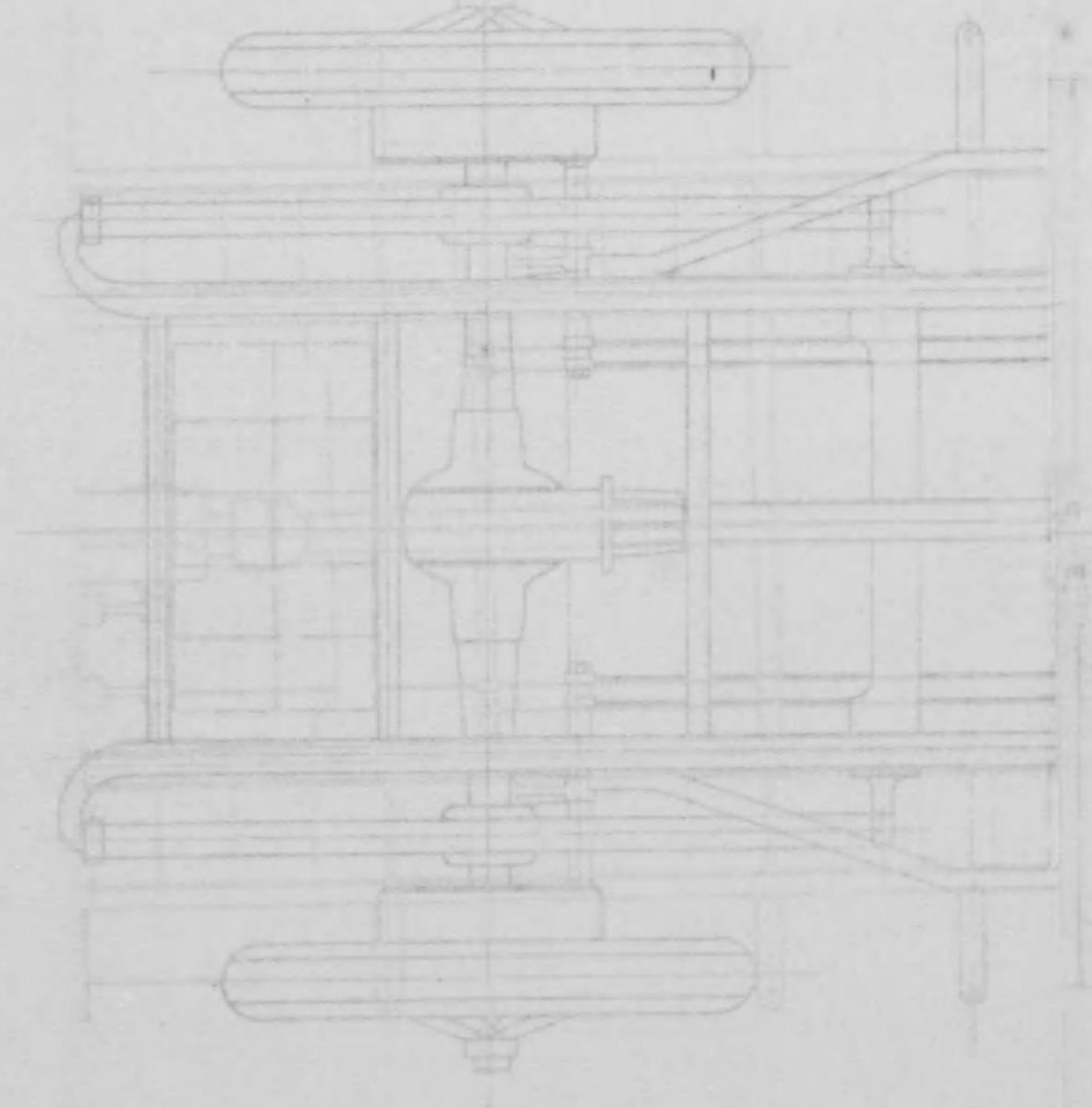
三 其

器御制[コルテ]



挿圖第 二十 九

面平車動自電





一、人力車

人力車ハ過去數十年間便利ナル交通機關トシテ普ク利用セラレ其數實ニ多大ナリ現時都市ニ於テハ電車、自動車ノ利用ニ伴ヒ人力車ノ數ハ漸次減退シツツアルハ事實ナルモ都市以外ノ地方ニアリテハ唯一ノ交通機關トシテ今猶盛ニ用ヒラレツツアル事モ疑ヲ容レザル所ナリ將來本邦ノ道路ガ改善セララルニ至ラバ人力車ハ或種ノ自動車ノ爲ニ其勢力範圍ノ幾分ヲ占領セララルベキ運命ニアルハ想像ニ難カラズト雖モ、國情ニ徴スレバ急速ニ事實トシテ現ハルベキモノトモ思ハレズ之ニ加フルニ一方ニ於テハ滿鮮、支那、南洋等ニ輸出セララルル人力車ノ數猶多大ナルヲ見ルモ此製作工業ハ未ダ必シモ前途ヲ失ヒタルモノニアラザルベシ、然ルニ大正博覽會ニ於テ十三點ノ出品アリシニ對シ宮城安吉ノ出品僅ニ一輛ナリシハ聊カ寥々ノ感アリ出品ハ往年ニ比シ多少ノ進歩ヲ認メ、特ニ塗工、體裁ノ點ニ於テ然リトナスト雖モ機構部ノ考案、工作等ニハ十分ノ注意ヲ拂ハザルモノノ如シ

二、自轉車

第十七部ノ交通運輸館ニ於テ出品人員及出品數ノ多數ニシテ特ニ一ノ異彩ヲ放チタル感アリシハ自轉車及其部品、附屬品ノ出品ナリトス自轉車ハ個人交通機關トシ實用ノ境域ニ入り普ク使用セララルニ至リシハ過去十餘年ノ事ニ屬ス、今日ニ於テハ個人交通機關ト稱スルヨリモ寧ロ輕便ナル一種ノ運搬車ト見做シ得ベキ程度マデ實用化シ各地ニ於テ業務ノ如何ヲ問ハズ此機關ヲ日常ノ必需品トシテ多々益々要望スルニ至リ今ヤ本邦自轉車ノ使用總數ハ二百四十萬輛ヲ超過セントスル盛況ニアリ、其使用增加率ノ如キモ最近一箇年ニ付約三十萬輛ニ達スルニ至レリ、然シテ外國輸入品ハ其數非常ニ減退シ、本邦ニ於ケル自

轉車、其部品及附屬品ノ製作工業漸ク隆盛ヲ極メ東京府ニ宮田製作所、大日本自轉車株式會社、廣瀬藤太郎、愛知縣ニ岡本自轉車自動車製作所、神戸ニ日英自轉車製造株式會社等ノ大工場ヲ算スルニ至リ年額約四十萬輛ノ製產ヲナスニ至リシハ誠ニ邦家ノ爲メ慶賀スベキ事ナリ。其販路ノ如キ廣ク朝鮮滿洲支那南洋等ニ互リ輸出ノ要望少ナカラザルモ其製產額ハ専ラ内地ノ需用ヲ充スニ足ラザルノ狀況ニアルハ遺憾トスル所ニシテ切ニ營業者ノ奮勵ヲ希望シテ止マザルナリ

明治四十年東京博覽會ニ於ケル自轉車ノ出品ハ出品人四名出品數十七輛ナリシガ大正博覽會ニ至リ出品人十名出品數六十六輛ニ達シ本會ニ於テハ部品附屬品ノ出品者ヲ合スレバ出品人五十三名、自轉車九十七輛及多數ノ部品及附屬品ヲ見ルニ至リシハ斯業發展ノ跡歴然タルヲ窺知スルニ足ルベシ

審査ヲ行フニ當リ出品人ノ事歴、產業ノ規模、施設、產額、製作法、検査法其他數種ノ事項ニ互リ詳細ニ調査シ現品ニ就テハ現場審査ノ外ニ各出品人ヨリ代表車一輛宛ヲ提出セシメ之ヲ逐一分解シテ審査ヲ行ヒ別ニ運動機構部ニ就テハ部品及附屬品出品人ト共ニ各自ヨリ指定ノ部分品ヲ提供セシメ鐵道省中央試驗所ニ委託シ破壊検査及顯微鏡検査ヲ行ヒ其材質及熱所理ノ適不適ヲ鑑識シタルニ加ヘテ更ニ必要ニ應ジテ審査官舉テ出品人工場ヲ臨檢ヲモナシ以テ審査ノ慎重ヲ期シタリ

- 一、自轉車ノ全部ヲ製作スルモノ
- 二、自轉車要部ノ全部ヲ製作スルモノ
- 三、自轉車要部ノ一部ヲ製作スルモノ



四、自轉車ノ部分品若シクハ其附屬品ヲ製作スルモノノ四種ニ大別シ得ルモノノ如ク第一種ニ屬スルモノハ鋼球「サドル」及附屬品ヲ除キ自轉車ヲ全部製作スルモノニシテ「リム」「スポーク」「タイヤ」及鎖等ヲモ自家工場ニ於テ製作スルモノアリ。第二種ニアリテハ「フレーム」「ギヤ」「クラシク」「ハブ」「ブレイキ」等ノ主要部ノミヲ製作シ其儘之ヲ販賣シ若シクハ他ノ部分品ヲ買集メ結合シ販賣スルモノニシテ一種ノ分業トモ見ルベキモノ之ナリ。第三種ニ至リテハ管框其他一二ノ部品ヲ製作シ之ヲ販賣シ若シクハ他部ヲ購入シテ組立販賣スルモノヲ總括ス第四種ハ自轉車ノ部分品例ヘバ「リム」「タイヤ」「ギヤ」「クラシク」「ハブ」「ベタル」「ハンドル」「ブレイキ」「フリーホイール」「鎖、土除等ノ部品」一若シクハ數品ヲ製作スルモノ並ニ「ランプ」「ベル」「サドル」「ボンブ」「ケース」等ノ附屬品ヲ各個製作スルモノヲ包含ス。第一種第二種ノ製作者ハ立派ナル規模ヲ有シ工場組織ヲ以テ營業ス、第三種ニ屬スルモノハ未ダ工場組織ニ達セザルモノ多ク第四種中「タイヤ」「リム」「ランプ」等ヲ製作スルモノニアリテハ相當ノ規模ヲ有スルモノアルモ其他ハ第三種大同少異ナルモノノ如シ、第三種ノ製作者ハ「接手」及「ブラケット」等ハ主トシテ可鍛鐵ヲ用ヒ之ヲ當該製造者ノ供給ニ待ツモノ多シ、要スルニ第三種及第四種ハ其規模ノ大小コソアレ純然タル分業制タルヲ失ハズ

自轉車工業ノ如キ所謂多數製産工業ニアリテハ一方ニ於テ分業ノ發達ヲ獎勵スルヲ可トスルモ、分業制ニアリテハ各分業者ガ各自ノ製品ニ就テ絕對ノ責任ヲ負ヒ其材質ヲ採用シ合理的作業法ニヨリ寸度ヲ精確ニシ的確ナル交換式ニ則ルニアラザレバ其目的ノ大半ヲ失フベキハ論ヲ俟タザルコトナルベシ、然ルニ本邦ニ於ケル自轉車工業ノ分業者ガ

單ニ其形態ヲ追ヒ低價ヲノミ競ヒ、製品ノ欠陥ヲ安直ヲ以テ償ハントスルガ如キハ分業ノ本旨ヲ没却スルモノト言フモ、證言ニアラザルベシ審査ノ結果ニ徴スルニ「クラシク」ガ「クラシク軸」ノ直徑ニ適合セザルモノアリ「クラシク」ノ巾ガ軸ノ適合部ノ長度ト一致セザルアリ「ベタル」心棒ノ施螺部ノ長サガ「クラシク」ノ適合部ト相應セザルコトアル如キハ其一例ニシテ之ヲ巨細ニ検査スレバ此種ノ例多ク之アルベキヲ思ハシム、此一事ニ見ルモ聊カ寒心スベキ點アリ茲ニ當業者ノ一考ヲ促ス

自轉車ニ用ユル「リム」「タイヤ」「鎖」等ハ今日ニアリテハ其工業漸次發達シ外國品ニ取ツテ代リツツアルハ大ニ意ヲ強フスル所ナルモ、鎖ニ就テ言ヘバ材質ノ摺用ヲ誤リ作業ノ方法適當ナラズ其耐久性ニ乏シキハ遺憾トスル所ナリ、鎖ハ百有餘ノ「リンク」ヲ連結シテ一體トナシ使用スルモノナレバ各節ニ於ケル僅少ノ誤差モ全體ニ於テハ意外ノ差ヲナシ各節間ノ微少ノ伸長モ全長ニ相當ノ影響ヲ及ボス理ナレバ材料ノ撰擇ハ勿論、精確ナル工作ト熱所理ノ正確トニ細心ノ注意ヲ配リ製品ノ検査ヲ忽ニセザルニアラザルヨリハ彼國ノ製品ト相拮抗スルコト難シト信ズ

原料品タル引拔鋼管、各種鋼桿等ハ内地品ヲ使用スルモノ多キヲ加フルニ至レルハ是亦特筆ニ値ス、然レドモ内地品ハ品質一定セザル憾アリ、購入ノ都度材質及寸度等ニ多少ノ差異ヲ免レズ當業者ノ作業上困難ヲ感ズル場合少ナシトセズ、更ニ原料タル鋼板ニアリテハ本邦製品ハ展性ニ乏シク冷間引伸作業ニ適セザルモノ多ク、多額ノ製産ヲナス工場ニ於テハ勢ヒ外國品ノ供給ヲ仰ギ材質ノ整一ヲ期スルノ必要ニ迫ラルルハ事應止ムヲ得ザル事ナルモ又邦家ノ工業ノ爲メ憂フベキ一事

ナリトス此機會ヲ利用シテ製鋼業者ノ研究ヲ希望ス

出品ニ就テハ些細ノ點ニ於テ其甲乙ヲ認ムルモ其大體ノ様式及意匠考案等ハ大同小異ニシテ特筆スベキモノナキモ前「フオーク」ノ彈性ニ關スル點及ビ接手附近ノ強メ管ニ就テハ多少研究ノ跡ヲ見タリ、自轉車ノ使用ハ個人交通機關トシテノ性能ニ加ヘテ輕便運搬車ノ役目ヲモ要求スルニ至リタル今日ニアリテハ此簡單ナル車輛ニ對スル積載荷重實ニ意外ナル場合ナシトセズ、例ヘバ穀商ノ使丁ハ白米二斗ヲ自轉車ニ托シテ運搬スル場合稀ナラズ、白米二斗ノ重量ハ約八貫目ニ相當シ乗手ノ平均體重ノ約六割ニ當ルヲ考フレバ、自轉車ノ耐荷性ハ昔時單ニ個人交通機關トシテ専用セラレタル時代ニ比シ自然増加セザルベカラザルハ當然ノ事ナリ、特ニ吾邦ノ道路ノ關係上衝擊震動烈シキヲ以テ耐荷性ヲ増シ且此不利ニ應ズル爲メ自轉車ノ重量亦増加スルニ至レルハ自然ノ數タルヲ免レズ、此時ニ當リ接手附近ノ強メ管ノ構造及、前「フオーク」ノ管狀等ニ就テ當業者ガ注意ヲ拂フハ誠ニ合理ノ所置ニシテ大ニ同意ヲ表スル所ナリ、英國ノ當業者ノ信頼シ得ベキ實驗ノ結果ニ徴スルニ「前フオーク」管ノ肉ノ厚サヲW、一番若シクハ二番増加スルヨリモ其厚サノ管ヲ用キテ「フオーク冠」ヨリ漸次ニ其肉ヲ遞減シ撓性ヲ與フレバ却テ「フオーク」ノ強サヲ増スト云フ、此理ニ基ケバ所謂「バツテツド」管ヲ用コルカ、強メ管ノ様式設計ヲ研究スルハ有益ノ事ナリト信ズ

審査ノ結果ヲ見ルニ接手類ハ出品ノ七割以上ハ可鍛鐵鑄物ヲ使用ス、已ニ大正博覽會審査報告ニ於テモ可鍛鐵接手ヲ用ユルハ稍時代後レノ感アリト加評シタリ、然ルニ本會出品ノ自轉車ニ今猶鋼板接手ヲ用ヒズシテ可鍛鐵接手ヲ採用スルモノ多キハ了解ニ苦ム所ナリ、是或ハ價

格ヲ競フ爲メカ或ハ工場設備上鋼板接手ノ製作困難ナルカニ基因スルモノナランモ、元來可鍛鐵接手ハ鑄着ヲ行フニ當リ鑄ノ熔解點高温度ナル爲メ可鍛鐵内部ノ組織ニ變化ヲ及ボシ其性質脆弱トナリ自轉車管框ノ強度ヲ減ズルノ憂ナシトセズ、鋼板接手ハ此憂ナク且ツ材質素ヨリ可鍛鐵ヨリ遙ニ強キヲ以テ當業者モ此點ニモ一考ヲ費スノ價格アリト信ズ

更ニ一言スベキハ接手ト管トノ鑄着ノ一事ナリトス、自轉車ノ製作ニ於テ鑄着作業ハ實ニ肝要ナルモノニシテ鑄着宜シキヲ得ザレバ如何ニ優良ナル材料ヲ採用シ高級ナル工作ヲ施スモ自轉車ノ強度貧弱ニシテ實用ノ效果ヲ收ムルコト難シ、然ルニ當業者ハ鑄着ノ可否ヲ檢スル道ヲ講ズルモノ少ナク偶之ニ考慮ヲ運ブモノモ鑄着部ヲ鑄ニテ打診シ音響ノ善惡ニヨリ之ヲ察スルニ安ズルハ重大ナル缺陷ト稱スベシ、之ニ對シ適當ナル施設ト方法トヲ講ジ鑄着ノ可否ヲ判別スルコトヲ研究センコトヲ希望ス

出品中特ニ記述ヲ要スルモノハ宮田製作所、株式會社岡本自轉車、自動車製作所、大日本自轉車株式會社、日英自轉車製造株式會社ノ自轉車ナリトス、前二者ハ其成績拔群ニシテ名譽賞牌ヲ贏獲タルモノニシテ斯業界ノ翹者タリ後二者ハ金牌ノ榮譽ヲ負ヒ共ニ同業者中ノ重鎮タルヲ失ハズ

宮田製作所ハ宮田榮助個人ノ經營ニ係リ明治二十三年ヨリ自轉車ノ製作ニ志シ爾來三十有餘年業務ニ精勵シ獲ル所ノ利潤ハ舉ゲテ工場ノ擴張ト設備改善トニ費シ目下高級技術者數名ヲ用キ學理ト實地トノ積化ニ努メ、各種專門機械ヲ創案シ諸種ノ斬新自動機械ヲ設備シ材料ノ摺用、熱所理ノ精確ヲ期シ半成品及成品ノ測定検査ヲ行ヒ殆ンド完全ナ



ル交換式作業ヲ實行シツツアリ、特記スベキハ材料強弱試験機械極精  
密測定機械等ヲモ設備シ益々科學的研究ヲ進メツツアルコトトス、提  
出スル所ノ解説書ニヨレバ従業員三百十八名、工作機械及設備二百五  
十點以上ヲ使用シ年額自轉車四萬輛以上ヲ產出スト云フ、現品審査ノ  
結果ニ依レバ品質優良ニシテ工作亦精確ナリ特優ノ外國品ニ比スレバ  
經庭アルヲ免レズト雖モ普通ノ外國品ニ較ブレバ亦遙ニ上位ニアリ  
當工場ニ於テハ未ダ「リム」「スポーク」等ノ製作ニ着手セズ、鍍金、  
鑿工事ハ大部分下職制ニ依レルガ目下施設ヲ増シ其進歩ヲ急ギツツア  
ルヲ見タリ愈々當業者ノ奮勵ヲ望ム

株式會社岡本自轉車自動車製作所ハ明治三十二年岡本松造ノ創立ニ係  
リ爾後二回ノ組織變更ヲ經テ大正八年株式會社ニ改メタルモノナリ。  
創立以來二十有餘年岡本松造ハ不斷ノ努力ヲ以テ斯業ノ研究ヲ怠ラズ  
莫ニ高級技術者ヲ聘シ嘗テ歐米ニ於ケル斯業ノ觀察ヲナサシメ歸朝後  
學理ヲ實地ニ應用シ施設ノ改善ヲ圖リ作業法ヲ改メ近時歐米ノ斬新機  
械ヲ備ヘ成績大ニ視ルベキモノアリ。其提出セル解説書ニ依レバ目下  
従業員約六百名ヲ算シ年額約三萬六千輛ノ自轉車ト數多ノ飛行機用車  
輪トヲ製作スルト云フ。審査ノ結果ニ見ルニ其製品ハ優良ニシテ各部  
交換式ノ意義ニ適ヒ工作又精確ニシテ官田製作所ノ製品ト殆ンド伯仲  
ノ間ニアリ。強テ論評ヲ試ムレバ材料ノ選定ニ關スル科學的施設ト製  
成品ノ強弱検査ノ點ニ於テハ前者ニ一籌ヲ讓ルノ感アレドモ、常ニ業  
務ノ發展ヲ畫シ現ニ目下工場ノ擴張中ニアリテ將來益々自轉車ノ製作  
ヲ盛ニシ、更ニ進んで自動車製作ヲ企テントス氣勢又稜々タルモノ  
アリ大ニ賞揚ニ價ス、當業者ハ今回ノ成績ニ安んゼズ益々發展ニ努力  
セラレン事ヲ望ム

如シ

材料ノ撰用ハ如斯多數製産工業ニ於テハ最モ肝要ナル事項ナリ、例  
バ一ノ材料ヲ取リテ種々ノ試験ノ結果發見シタル及切適當速度若シク  
ハ熱所理ニ對スル最適温度等モ他ノ材料ニ對シテハ全然適應セザル場  
合多ク材料ノ異り度毎ニ逐一其實驗ヲ重ネザルベカラザルベカラザル  
ニ至リ營利事業トシテハ其煩ニ堪エザルベシ、故ニ適材適所ノ理ヲ以  
テ當初材質ヲ撰定シ一旦其材料ニ對スル工作要領ヲ説窮セバ繼續的ニ  
同一材料ヲ使用スルヲ得策トス

表面硬化ハ内部粘靱ナル組織ヲ有シ表面丈硬固ナルヲ要スル部分ニ對  
シ之ヲ行フヲ原則トスルモノナレバ殊ニ肉薄ノ品物ニ於テハ硬化ノ度  
深キニ失スレバ其品物ハ脆弱タルヲ免レズ。特ニ自轉車機部中鋼球ヲ  
裝スル部分ニアリテハ硬化ノ爲メ行フ炭素蒸ノ深サト次ニ施ス熱所理  
トハ相俟ツテ硬化本能ニ至大ノ關係アル故ニ特ニ研究ト注意ヲ必要ト  
スル所ナリ審査官ハ當業者ニ對シ之ガ注意ヲ促スノ目的ヲ以テ各出品  
人ニ審査部ニ出頭ヲ求メ試片ニ就テ一々説明ヲ與ヘタルハ老要心ノ説  
ナシトセズト雖モ審査官ノ誠意ト所信ノ存スル所ヲ諒知セラレンコト  
ヲ望ム

施螺工作ニ於テハ世人多ク之ヲ輕視シ螺子ハ其雌螺ト螺込マルレバ是  
足レリトシ其「ピッチ」及螺旋山ノ關係等ニ就テハ特別ノ考慮ヲ拂フ  
モノ少ナシ。然レドモ自轉車ノ如キ烈シキ取扱ヲナシ、路上不斷ノ震  
動ヲ受ケ且ツ屢々分解、結合ヲ必要トスルモノニアリテハ旋螺部精確  
ナラザル時ハ偶々脫離シ若シクハ時ヲ經テ所謂馬鹿トナルコト稀ナ  
ラズ、從テ旋螺ニ細心ノ注意ヲナスノ必要ナルハ實ニ慮外ノ眞理トモ  
稱シ得ベク深ク銘心スベキ事ナリ。歐米先進國ニ於テ精良ナル機械設

規模及產額等ニ於テ前二者ト稍匹敵シ品質聲價等ニ於テ次位ニアルモ  
ノヲ大日本自轉車株式會社ノ製品ナリトス。大日本自轉車株式會社ハ  
大正五年ノ創立ニシテ新ナル機械設備ヲ施シ多額ノ自轉車、及「リ  
ム」「タイヤ」等ヲモ製作シ鍍金、鑿工ヲモ自工場ニテ施行ス、解  
説書ニヨレバ従業員七百餘名ヲ用ヒ年額五萬輛ヲ產出スト云フ。工作法  
ニ就テハ多少猶改良スベキ所アリ且製品ニ於テモ評言ヲ挿ムベキ點ナ  
キニシモアラズト雖モ其成績ニ於テハ出品中ノ高位タルヲ失ハズ。創  
業日猶淺クシテ經驗十分ナラザルニモ係ラズ、如上ノ產額ヲ出シ斯界  
ニ貢獻シタル功績浸スベカラズ、當業者ノ苦辛大ニ察スベキモノアリ  
日英自轉車株式會社ハ其前身ヲ「プリミヤ」自轉車製造株式會社ト稱  
シ明治四十五年英國人ノ創立ニ成リ、大正元年日英合同資本ノ株式會  
社ト變更シタルモノナリ。解説書ニヨレバ従業員四百八十餘名ヲ包容  
シ年額一萬二千輛ノ自轉車ヲ產出ス。當工場ハ「プリミヤ」自轉車式  
ノ卷管ヲ以テ比較的輕キ製品ヲ製作シ神戸地方ニ於ケル斯業ノ首領タ  
リ產額、規模ニ就テハ大日本自轉車株式會社ニ一步ヲ讓ルモ製品ノ品  
質、工作其他ノ事項ヲ總括スレバ其成績前者ト稍對位ニアルモノトス  
自轉車及部品、附屬品ノ審査ヲ概括シテ一言セントス。前述シタル如  
ク材質及熱所理ニ對シ顯微鏡鑑識ヲ行ヒ且分解審査ヲ施シタル結果左  
ノ結論ニ達ス

一、材料ノ撰用不十分ナルモノアリ

二、表面硬化ノ深サ概シテ深キニ失シ且熱所理完全ナラズ

三、機械工作拙速ニ流レ殊ニ施螺甚シク疎忽ナルモノアリ

以上ハ綜合的結論ニシテ各個ノ成績ニ就テハ夫々差別アルハ論ヲ俟ザ  
ルコトナリ、然レドモ前記三箇條ハ當業者ノ平均共通缺點タルモノノ

備ハ其工場ノ價值ヲ示シ施螺ノ巧拙ハ工場ノ技量ノ標準ナリトノ文字  
アルハ決シテ偶然ノ事ニアラズ。審査ノ統計ニヨレバ出品中施螺ノ疎  
忽ナルモノアリシハ決シテ一二ニシテ足ラズ茲ニ當業者ノ反省ヲ促シテ  
止マザル所ナリ

終ニ臨ミ一言セント欲ス。本邦ノ自轉車工業ハ日進月歩ノ勢ヲ以テ  
發展シ己ニ前述シタル如キ極メテ旺盛ノ狀況ニアリト雖モ猶内地ノ需  
用ヲ充スニ至ラズ大正十年間ニ於テ自轉車、其部品及附屬品ノ輸入總  
額約六百萬圓ニ達スルヲ見ルモ將來此輸入ヲ杜絶セシメ更ニ進んで滿  
鮮、支那及南洋等ノ需要ニ對シ十分ノ輸出ヲナサント欲セバ其必要ナ  
ル製産額ハ多々益々増加ヲ要求スルニ至ルベシ。當業者ハ緊要一番研  
究ト努力トヲ怠ラズ斯業ヲ發展シ邦家ノ爲メ貢獻スル所多大ナラシ  
ヲ切ニ希望スル所ナリ

三、乳母車

乳母車ノ出品ハ出品人員十八名ニシテ出品點數四十一點ヲ算シタリ。  
大正博覽會ニ於ケル十九點ノ出品ニ對シ倍加シタル出品ヲ見タルハ欣  
ブベキ事ナリ

乳母車ハ兒守不足ノ爲メ近時其需用頓ニ増加シタルモノノ如ク所謂文  
化生活ノ一要具トモ稱シ得ベキモノナリ。其構造ハ車體安定ニシテ動  
搖、震動少ナク操舵自在ナルヲ要シ且ツ乘心地良ク又衛生的ナラザル  
ベカラズ、之ガ爲メニハ重心位置ノ關係、發條ノ撓性ニ顧慮シ車輪ノ  
等一、平行等ニ特別ノ注意ヲナスベキモノトス

出品ニ就テ詳細ニ審査ヲ遂ゲタルニ如上ノ條件ニ添フモノ少ナク。缺  
點ノミヲ指摘スレバ發條ノ使用法合理的ナラザルモノアリ、或ハ強キ  
ニ失シ或ハ橫振ニ對シ防止ノ用意ナキモノアリ。車輪ノ製作疎末ニシ



テ其直徑等一ナラザルモノアリ、「ゴム輪」ノ顯著不確實ニシテ稍モスレバ離脱スル虞アルモノアリ、車輪半行ナラズシテ進行中其進路自ラ曲折シテ直行セズ横架ノ位置適當ナラズ操舵ニ困難ナルモノアリ車轂ノ製作共シク疎忽ニシテ車ノ進行圓滑ナラズ偶々鋼球ヲ裝シタルモノニアリテモ其「ハブ」鋼球裝羅ニ適セザルモノアリ。要スルニ無心無訴ノ小兒ヲ載スル機關トシテハ間然スベキ點少ナカラズ。是レ一般當業者ガ乳母車ヲ以テ一種ノ玩具視シタル見地ヨリ之ヲ製作シタルニ非ザルナキヤヲ思ハシムル點ナシトセズ。然レドモ其體裁裝飾等ノ點ニ於テハ一般ニ苦心シタル跡ヲ認メ得ベク特ニ籐製ノモノニアリテハ往年ニ比シ籐細工精巧ニシテ少ナカラザル進歩ヲ呈セリ

乳母車ノ部類中小供用足踏自動車ノ出品モ亦少ナカラザリキ。夫等ハ概シテ低價ヲ競フ爲メカ其構造脆弱ニシテ長時ノ使用ニ堪エザルモノアリ。機構部ニ就テハ「クランク」部及軸ノ摩擦部不完全ナルモノアリ概シテ「ハブ」ハ粗製ニシテ機械構造ノ本旨ニ添ハザルモノアリ畢竟小供用ノ自動車ト雖モ機構各部ノ設計ニ注意シ相當ノ耐久性ヲ與フニ非ザレバ十分實用ニ供シ難シ。大正博覽會審査報告ニ於テモ總々其缺點ヲ指摘シ得タルニモ係ラズ此種ノ車輛ニ於テ十分改良ノ實ヲ舉ゲ得ザリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ

東京小菅恭太郎ハ比較的設備整頓シタル工場ヲ有シ職工三十名ヲ使用シ一箇年約一萬輛ノ各種小供車及乳母車ヲ製産スルト云フ其出品ハ改良スベキ點アルモ品質佳良ニシテ實用ニ適ス

四、雜 車

東京上條幸助ハ本邦特許ニ係ル上條式「ゴム」車ヲ約二十點出品シタリ此車輛ハ普通「ゴム車」ト異リ輪心ニ特殊ノ手段ヲ以テ「ゴム」ヲ

良ク馬背ヲ保護シ得ル如ク壞毛スルヲ要スベシ

二、包 裝 類

包裝ノ良否ハ荷物ノ保全輸送ノ能率ニ甚大ノ關係ヲ有シ經濟上ニ及ボス影響實ニ大ナルニモ拘ラズ從來其レガ研究ハ十分ナラズ姑息ナル手段ニ依リ爲メニ荷物ノ取扱輸送上多大ノ不便ヲ感ジタルコト多シ今回出品シタル諸會社ハ各々研究製作シ相當ノ成績ヲ有スルハ誠ニ喜ブベキ所ニシテ將來一層研究改善シテ其レガ完成ニ努メラレシコトヲ切望ス

出品シタル包裝類ノ大要次ノ如シ

第一、木箱代用紙函

出品人 聯合紙器株式會社

本箱代用紙函ハ段「ボール」紙函ニシテ電球、陶磁器類醫療機械硝子製品等ノ破損シ易キモノ足袋、シャツ、反物、化粧品、蠶卵紙、海苔菓子等重量ノ過大ナラザル物ノ荷造包裝用トシテ廣ク使用セラレ左ノ特長アリ

- 一、段「ボール」紙ハ内容ノ摩擦ヲ防ギ震動ヨリ生ズル破壊力ヲ防グ效果大ナリ
- 二、木箱ニ比シ價格低廉且ツ體裁優美ナリ
- 三、折疊ミ自由ナルヲ以テ之ヲ貯藏スルニ容積ヲ要スルコト小ナリ
- 四、自重輕キタメ取扱ヒ便且ツ運賃ヲ節約ス
- 五、荷造簡單ナルヲ以テ婦女子ニテモ容易ニナシ得
- 六、函ノ材料彈力性ニ富ムヲ以テ内容品ヲ損セズ
- 七、函ノ外面ニ美術的ノ印刷ヲ容易ニナシ得ルヲ以テ經濟的廣告ヲナシ得

裝着シ硬化ヲナシタルモノニシテ普通「ゴム輪」ノ如ク脫離スル憂ナク耐久性ニ富ミ十分實用ニ適ス

第七 馬具類(第九十七類ノ第五項)及包裝類(第九十八類)

審査主任 永田直武

一、馬 具

近年馬ノ改良馬事思想ノ發達ニ伴ヒ良好ナル馬具ノ需要モ益々増加セル狀況ニ在ルニモ拘ラズ今回馬具類ノ出品者ハ僅カニ二名ニシテ其ノ出品モ甚シク改善ノ跡ヲ認メラザルハ遺憾トスル所ナリ將來各製造者ハ此ノ如キ機會ニ競ウテ出品シ廣ク一般ノ批判ヲ受ケ以テ馬具類ヲ改善スル一助トセラレシコトヲ切望シテ止マズ今回出品シタル西卷及井川兩商店ノ馬具類ニツキ審査シタル概況ヲ左ニ述ブ

一、各種馬具ノ製作ニハ各々其ノ特性ヲ研究シテ製作スルコト緊要ナリ又外國製品ヲ參考トシテ製作スルモノニアリテハ單ニ一部ノ外形ヲ模倣スルコトナク眞價ノ在ル所ヲ研究シ其レガ發揮ニ努ムルヲ要ス

二、各製品共一般ニ堅牢ヲ缺ク甚シキハ裝飾ニ流レテ實用ヲ疑ハシムルモノアリ

三、鞍骨ハ遊鞍ト軍鞍トノ間ニ殆ンド差異ヲ認メザルモ遊鞍ハ軍鞍ニ比シ騎座ノ彎曲ヲ淺クシ其ノ穹窿ハ前方ニ傾斜スルヲ要ス

四、鞍褥ヲ馬背ニ適合セシムルノ念慮稍少シ又鞍ノ種類ニ應ジ適當ニ製作セラレタルモノアリ例ヘバ遊鞍ノ鞍褥ハ薄クシテ馬背ノ適合ヲ良好ナラシムベク軍鞍ノモノハ稍厚クシテ長時間ノ乗御ニ於テモ尚

第二、「フアイバーボックス」

出品人 星製藥株式會社

本會社ハ最近英國桑港「ゼラバツク」紙函製造會社ヨリ機械一式ヲ購入シ原料「バルブ」ヲ輸入シ糊附壓搾機械ニヨリ堅紙ヲ製造シ之レヨリ自動的機械ニヨリ仕上グルモノニシテ概ネ前記木箱代用紙函ト同様ノ特長ヲ有スルモ紙質ノ精選ニ一層ノ注意ヲナシ又荷造ハ硫酸曹達(一名水ガラス)ヲ塗ル方法ニ依ルヲ以テ簡易確實ナリ

第三、「ベニヤ」製包裝箱

出品人 日本「ブライウード」株式會社

「ベニヤ」製包裝箱ハ木材ノ纖維ノ方向ヲ相交シテ數枚張り合セタル合板ヲ以テ製作シ人工ニヨリ木材ノ物理的能率ヲ増進シタルモノニシテ左ノ特長アリ

- 一、薄板ノ纖維ヲ縱横ニ貼り合セタルヲ以テ其ノ厚サ薄キモ頗ル強靱ニシテ破損シ易カラズ
  - 二、厚サ薄キヲ以テ包裝箱其ノ物ノ重量ヲ減ジ從ツテ運賃ヲ節約ス
  - 三、繼ギ目ナキ爲メ浸水並ニ濕氣吸收ノ憂少シ
  - 四、包裝堅固ナル爲メ拔荷セラレタル場合ニハ痕跡ヲ留ムルヲ以テ拔荷ノ危險ヲ防止スル事ヲ得
  - 五、耐水膠ヲ用フルヲ以テ十分ナル耐水耐熱ノ力ヲ有ス
- 第四以上ノ外中川商行ノ木箱ニ源商會ノ釘無包裝箱及東洋綿布荷札商會ノ綿布荷札ノ出品アリ共ニ參考トスルニ足ル

第八 第九十九類、二〇二類、二〇三類

二百類(但シ第二百類ノ内船用内)



燃機關ヲ除ク

報告員 栗生鴻之助

此類ニ屬スルモノハ住友鑛山所、藤永田造船所ノ外審査ヲ受ケシモノ僅カニ四名ノ出品人ニ過ギズ其中記スベキハ株式會社墨田川造船所出品つかさ丸型自動艇アルノミ、同會社ハ大正四年以來専ラ自動艇及ヨット、端艇類ノ建造ニ從事シ其專賣特許つかさ丸型自動艇及かつ郎型ヨットハ汎ク本邦沿海ニ供給シ其隻數四百六十二達セリ構造上特色トスル所ハ縱斷面及橫斷面船底曲線ガ共ニ圓弧ノ一部分ヲ以テセルニアリ

第九 船用内燃機關類

審査主任 淺川權八

本邦ニ於ケル船用内燃機關需用方面ハ主トシテ漁船ニシテ現下其隻數ハ七千ヲ超ヘ猶年々著シク増加ノ傾向アリ、從來ハ多く「セミディゼル、エンジン」ヲ使用セシモ漸次「ディゼル、エンジン」ヲ採用スルニ至レリ、是レ後者ガ熱効率高クシテ且ツ劣等油ヲ使用シ得、運轉經費ノ經濟的ナルニ依ルモノ也、唯「ディゼル、エンジン」ハ其構造複雜ニシテ、從ツテ其取扱ニハ經驗熟達ノ運轉手ヲ要シ、之ヲ「セミディゼル、エンジン」ガ構造簡單取扱容易ニシテ漁夫ニテモ少シク習得スレバ直チニ運轉シ得ルニ比シテ遜色アリ、思フニ結局ノ經濟ハ小馬力ニ向ツテハ「ディゼル、エンジン」ヲ以テ利アリトシ、大馬力ニ向ツテハ「ディゼル、エンジン」ヲ以テ利アリトスベシ「セミディゼル、エンジン」出品ハ何レモ整型ニシテナイクル式機關ニシテ

出品少數ニシテ爲メニ本邦新業ノ全約ヲ窺フニ由ナシ其中二三記ス可キモノヲ舉グレバ左ノ如シ

株式會社神戸製鋼所出品鑄鋼鑄一同所ハ主トシテ「ホトルス」型鑄鋼鑄ヲ製作シ其品質ノ優秀ナルハ世既ニ定評アリ多年帝國海軍造船所及汽船會社ノ艦船ニ供給シ輸入防過ノ效アリ、同所出品「ディゼルエンジン」用「クランク、シャフト」亦推奨スルニ足レリ、尙同社ガ最得意トスル艦船用各種鍛鑄製品ニ關シテハ今回何等ノ出陳ヲ見ザリシモ此ノ方面ニ於ケル同社ノ努力ト一般造船業ニ對スル貢獻トハ特筆スルノ價値アルヲ認ム

東京計器製作所出品羅針儀一同所ハ近來著々技術ノ進歩ヲ示シ各種千般ノ計器ヲ製作シテ一々相當ノ成績ヲ舉ゲタリ今回出品中特ニ羅針儀ハ液體方位計ノ製作上最モ困難トスル鉢内液體ノ膨脹收縮ヨリ來ル壓力ノ變化ヲ制動盆内底部ノ空氣ヲ利用シテ巧ニ調節シタルモノニシテ溫度ノ變化ニ由ル硝子ノ破損又ハ泡沫ノ發生ヲ防ギ得タリ而シテ大戰中外國品ノ輸入杜絶スルニ當リ能ク之ヲ補フテ以テ本邦造船業ノ急劇ナル發展ニ支障ナカラシメシハ同所ノ效モ尠ナカラズト云フベシ

大阪製鎖所出品鑄鎖一同所ハ明治三十七年以來長ク新業ニ從事シ銳意經營ニ努力シ幾多ノ難境ヲ凌ギテ設備ノ擴張、技術ノ研鑽ヲ重ネ以テ能ク今日ノ境地ヲ致セリ近時ハ徑四吋ノ鑄鎖ヲ製造シ得ルニ至リ製品ハ外國著名ノ新業者ニ比較シテ遜色ナク、産額ニ於テモ一箇年四千噸以上ニ達シ海軍工廠、府縣港務部、各造船所汽船會社ニ供給シテ克ク輸入ヲ防過セリ

加藤純吾出品潜水器一大型ニ於テ舊來ノ樣式ニ止マルト雖モ猶鴨筒ノ構造、高聲電話機ノ應用等隨時改良ノ工夫ヲ怠ラザルハ多トナスベシ

製作者各自ノ經驗ト研究ノ結果、夫レゾレ發明改良ヲ加ヘタル點少ナカラザルヲ認メ得タリ

揮發油エンジンハ出品ニ點アリ、元來揮發油ハ本邦ノ産額極少ニシテ殆ンド渾テ外國ヨリノ輸入ヲ俟タザルベカラズ、而カモ將來大ニ發達スベキ航空機ノ主要燃料タルヨリ觀レバ、揮發油エンジンヲ船舶用トシテ將來汎ク使用スルコトハ寧ろ避クベキ事ニ屬ス、若シ之ヲ使用スル場合ニハ「ケロシン、カービユレツター」ヲ用キテ主トシテ燈油ヲ利用スベキナリ

劣等石油又ハ他ノ液體燃料ヲ使用シ得、且ツ其消費量比較的少量ナル「ディゼル、エンジン」ハ「セミディゼル、エンジン」ガ次第二馬力ノ大ナル場所ニ使用セラルル傾向アル現今ニ於テハ、經濟上ノ見地ヨリモ當然利用セラルルノ氣運ニ向ヘリ、此時ニ當リ新湯鐵工所、池貝鐵工所ハ何レモ優秀ナル「ディゼル、エンジン」ヲ製作シ一般ニ供給シツツアルハ大ニ喜ブベク、兩所ガ内燃機關製作創始以來二十星霜ニ近キ間常ニ改良進歩ニ努力シ近來工場ノ整備ハ素ヨリ、研究並ニ實驗ノ設備ヲモ整ヘ多數ノ熟達セル技師職工ヲ有シ其産額亦尠ナカラザルハ最モ推奨スルニ値スベシ

要スルニ、今回ノ出品物ノ多クハ其工作ノ精度ニ於テ大ナル進歩ヲ示シ、殊ニ材料ノ撰擇及其處理方ニ意ヲ用キタル跡ヲ認ムベシ、猶各製作者ガ其製品ニ一々實地試運轉ヲ施シ十分検査、修整ヲ了シタル後之ヲ販賣スルノ方針ヲ取レルハ最モ喜ブベキ狀勢ナリト云フベシ

第十 第二百一類及第二百五類

報告員 栗生鴻之助

其他和船船底塗料ニ於テ少數ノ出品ヲ見タリト雖モ錄スルニ足ルベキモノナシ

第十一 海運事業(第二百四類)

報告員 栗生鴻之助

我邦ノ海運ハ政府ノ保護監督ト當業者ノ拮据經營トニ由リ年ト共ニ顯著ナル發達ヲ示シタルガ殊ニ歐洲戰亂ノ勃發ハ本邦海運ノ發展ニ絶好ノ機會ヲ與ヘ從來世界第六位ノ海運國タリシ我邦ハ一躍英米兩國ニ次グノ地位ヲ獲得シ從前ノ面目ハ更ニ一新セララルルニ至レリ試ニ戰爭開始當時即大正三年七月ニ於ケル總噸數百噸以上ノ船舶ヲ看ルニ二千六百餘隻總噸數百八十八萬三千餘噸ナリシガ最近即大正十一年六月末ニハ四千五百餘隻總噸數三百八十八萬八千餘噸ニ達シ加フルニ戰時中一般海運界ノ好況ニ際シ船舶ノ新造セラレタルモノ寡カラズ殊ニ英米其他遠洋方面ニ對スル船腹ノ需要増加ニ伴ヒ大型船ノ建造ニ比較的多ク從テ本邦船舶ハ當ニ其數ニ於テ著シキ増加ヲ示セルノミナラズ其船型並素質ニ於テモ亦多大ノ發達改善ヲ見タルガ本邦造船業モ戰爭以來長足ノ進歩擴張ヲ來シ海員亦其數ト質トニ於テ從來ノ面目ヲ改メ此クノ如クニシテ我海運機關ノ基礎ハ益々鞏固ト爲ルニ至レリ

本邦船舶ヲ以テスル對外定期航路ハ其淵源ヲ明治初年ニ發シ爾來一而政府ノ獎勵補助ト他面當業者ノ努力經營トニ由リ歐洲、北米、南米、瀛洲、印度及南洋ノ如キ重ナル遠洋方面ヲ始メトシ其他近海ニ在テハ支那、西伯利等我邦トノ交通貿易上密接ナル關係ヲ有スル方面ニ對シ夫夫定期航路ノ施設ヲ看タルガ開戦後諸外國船中世界ノ通商界ヨリ脱返セルモノ少カラザルト共ニ一面ニハ世界的ニ船腹ノ需要倍々加ハリ自



ラ本邦船活躍ノ機會ヲ齎ラシタルヲ以テ我邦ニ於テハ前記ノ如ク船  
 船ノ増加ヲ見タルト共ニ此等船舶ヲ以テ世界ノ各方面ニ航海ヲ營ミ我  
 對外貿易ノ發展ト航權ノ擴張トニ資シタル所極メテ多ク從來定期航路  
 ナ有セザリシ地方即英國西海岸、北米東海岸、南米東海岸、南洋占領  
 島及青島等ノ諸方面ニ對シテモ夫々定期航路開始セラレ平和克復後最  
 近迄ノ間ニ於テハ更ニ獨逸、南支那沿岸、楊子江上流重慶地方、露領  
 沿海州及勸察加州等ニ對スル定期航路亦新ニ施設セラレ加之本邦船舶  
 ハ尙不定期的ニ世界ノ各方面ニ就航シ殆ド到ル所本邦船舶ノ船跡ヲ印  
 セザルナキ狀況ヲ呈スルニ至レリ

上記ノ如ク我海運ハ歐洲戰亂開始ノ前後ニ依リテ全ク局面ヲ改メ船舶  
 ノ増加改善ト航域ノ發展擴張トニ由リ其實勢力著シク加ハリタルガ怎  
 カル狀勢ヲ導クニ至リシ所以ノモノハ素ヨリ本邦船舶業者總テノ努力  
 ニ基ケルコト論ヲ俟タズト雖就中定期航路ノ經營者トシテ從來最モ有  
 力ノ地歩ヲ有シタル日本郵船、大阪商船及東洋汽船三社ノ力ニ依ツ所  
 少カラザリシハ蓋シ疑ヲ容レザルベシ

(一) 日本郵船會社

日本郵船會社ハ明治十八年十月三菱會社及共同運輸會社ノ合併ニ依リ  
 設ケラレタルモノニシテ當時同社ハ政府補助ノ下ニ我沿岸航路ノ外、  
 對外航路ニ在テハ橫濱上海線ヲ始メ浦鹽斯德、仁川及天津等ニ至ル定  
 期航路ヲ經營シ後海運ヲシテ漸ク沿海的ヨリ近海のニ擴張セシメタル  
 ガ明治廿六年中孟買航路ヲ開始シテ我遠洋定期航路ノ魁ヲ爲シ我海運  
 ナシテ近海のヨリ更ニ進ンデ世界のタラシムル端緒ヲ開クニ至レリ次  
 デ明治廿七八年戰役終了ノ翌廿九年同社ハ歐洲北米及濠洲ノ三大航路  
 ナ開始シ濠洲航路ハ同年十月以降政府ノ命令航路ト爲リ歐洲及北米ノ

兩航路ハ同三十三年一月以降孰レモ濠洲航路ト同様政府ノ命令航路ト  
 爲レリ

明治卅七八年戰役後國運ノ發展ニ鑑ミ同社ハ更ニ船舶ノ増加ト施設ノ  
 改善トヲ計リ明治四十三年一月遠洋航路補助法ノ實施ト共ニ前記歐洲  
 北米及濠洲ノ三航路ハ該法ニ依ル補助航路ト爲リ且明治四十四年九月  
 ニハ同社獨力ヲ以テ「カルカッタ」航路ヲ開始セルノミナラズ其他近  
 海方面ノ航路モ亦政府ノ助成ニ依リ其發達ヲ促進セラレタリ

大正三年歐洲戰亂ノ勃發ハ我海運ノ發展ニ未會有ノ好機會ヲ與ヘタル  
 モノニシテ世界の船腹ノ減少ト軍需品其他ノ輸送増加トニ伴ヒ本邦船  
 船ハ諸方面ニ活躍シタルガ郵船會社ハ從來ノ經營ニ係ル定期航路ニ於  
 テ必要ニ應ジ船舶及備船ヲ臨時各方面ニ配船セシメタルノミナラズ李  
 浦線、紐育線、南米東海岸線、瓜哇甲谷陀線、南洋占領島線及青島線等ヲ  
 開始シ世界的ニ物資需給ノ調節ト旅客交通ノ便宜トヲ計リ聯合與國ノ  
 戰爭遂行上ニ資シタル所不尠而シテ戰後ニ至リテハ新ニ漢堡航路ヲ開  
 キ此クノ如クシテ同社ノ所有船舶ハ次第ニ増加改善セラレ航域亦益々  
 擴張セラレ同社營業上ノ基礎ハ愈々鞏固ト爲リ即大正十一年三月末ニ  
 於テ同社ノ所有船舶ハ百餘隻總噸數合計五十四萬三千餘噸ヲ算シ其經營  
 ニ係ル定期航路ハ內國航路八線外國航路二十餘線ヲ數フルニ至レリ

(二) 大阪商船會社

大阪商船會社ハ明治十七年中大阪以西ノ船主ヲ合同シテ設立セラレタ  
 ルモノニシテ明治二十一年以降八箇年間政府ヨリ船舶改造資金ノ補助  
 ナ受ケ主トシテ阪神ヲ中心トスル內地沿岸航路ノ經營ニ從事シタルガ  
 明治二十八年臺灣總督府補助ノ下ニ内地臺灣間定期航路ヲ開キ更ニ翌  
 三十年ニハ臺灣沿岸航路ヲ三十一年ニハ楊子江航路ヲ三十二年ニハ南

支那航路ヲ夫々開始シ其他朝鮮方面ニ至ル航路ヲモ施設シ從來殆ド對  
 內的ニノミ限ラレタル航路ヲ對外的ニ擴張スルニ至レリ

明治三十七八年戰役ノ起ルヤ同社ハ時局ノ進展ニ伴ヒ明治三十八年中  
 大連線ヲ始メ牛莊、天津及浦鹽斯德等ニ至ル定期航路ヲ開キ次デ明治  
 四十年四月日清汽船會社設立セララルニ及ビ前記楊子江航路ハ之ヲ該  
 社ニ引繼ギタルガ同四十二年ニハ北米航路(タコマ)線ヲ開キ右ハ翌  
 四十三年一月遠洋航路補助法ノ施行ト共ニ同法ニ依ル命令航路ト爲  
 リ爾來內外航路ノ擴張發達ト共ニ其配船數モ増加シ以テ時運ノ要求ニ  
 克ク適應セシムルニ至レリ

大正三年歐洲戰亂ノ勃發ハ同社ニ對シテモ亦飛躍ノ好機會ヲ與ヘ外國  
 船ノ多クガ撤退シ海運界一般ニ好況ヲ呈シタルニ伴ヒ同社ハ從來其經  
 營ニ係ル航路ニ對シ定期船ノ外臨時ニ社船及備船ヲ差立テタルノミナ  
 ラズ新ニ定期航路ヲ開始シタルモノ尠カラズ即歐洲、北米(紐育ニユ  
 トオリンス方面)南米東海岸及濠洲等ヲ始メ瓜哇甲谷陀間、大阪青島  
 間等ノ諸航路ハ同社ガ開戦以來今日迄ニ開始シタル定期航路ニシテ同  
 社ノ所有船舶ハ大正十一年六月末現在ニ於テ百三十餘隻總噸數合計四  
 十二萬一千餘噸ニ達シ其經營ニ係ル定期航路ハ內國航路及外國航路各  
 孰レモ二十餘線ヲ數ヘ今ヤ日本郵船會社ト相並ビテ本邦海運界ノ重鎮  
 タルニ至レリ

(三) 東洋汽船會社

東洋船會社ハ明治二十九年中淺野總一郎ノ獨力經營ニ係ル淺野回漕部  
 ナ繼承シテ設ケラレタルモノナルガ當初ヨリ對米航路ニ着眼シ同航路  
 開始ノ目的ヲ以テ日本丸外二隻ノ建造ヲ計劃シ其竣工ヲ俟テ明治三十  
 一年十二月以降政府ヨリ航海獎勵金ヲ受ケテ桑港航路ヲ開始シ右ハ同

三十三年一月ヨリ政府ノ命令航路ト爲リタルガ明治三十七八年戰役ノ  
 後ヲ承ケテ大洋丸型優良船ノ建造ヲ企畫シテ同航路ノ施設改善ヲ計リ  
 又南米方面ニ對スル我交通貿易ノ趨勢ニ鑑ミ同方面ニ至ル定期航路ノ  
 必要ヲ認メ明治四十二年四月以降政府補助ノ下ニ南米西岸線ヲ開設シ  
 タリ當時同社ノ創業尙日淺ク加フルニ當時一般經濟界ノ不況等ニ因リ  
 同社經營上ノ苦心少カラザルモノアリシガ偶々歐洲戰亂ノ勃發ニ依リ  
 漸ク勢力ヲ挽回シ南北米ヲ通ジ貨客ノ激増ト運賃ノ騰貴トノ爲船舶増  
 配ノ餘地極メテ多大ナリシヲ以テ或ハ外國ヨリ船舶ヲ購入シ又或ハ船  
 船ノ新造ヲ企テ以テ南北米ニ對スル交通運輸ノ便宜ニ供シ此クノ如ク  
 ニシテ同社營業ノ基礎ハ戰亂ヲ機會トシテ相當鞏固ト爲リ大正十一年  
 六月末現在ニ於テ同社ノ所有船舶數八十餘隻總噸數合計十四萬一千餘  
 噸ヲ算スルニ至レリ



私設陳列館及陳列裝飾

私設陳列館之興起，實由於社會進步，個人生活之改善，及對藝術之興趣日增。此種陳列館之設置，不僅為個人收藏之展示場所，亦為社會教育之重要媒介。其裝飾之設計，應以簡潔、大方、且具藝術感為原則。在空間之利用上，應注意光線之配置，以及陳列品之高度與距離，以達到最佳之展示效果。此外，陳列館之環境，亦應保持整潔、舒適，以營造良好之觀展氛圍。

在裝飾方面，應避免過於繁複之裝飾，以免喧賓奪主。可採用一些現代感之設計元素，如幾何線條、中性色調等，以突顯陳列品之特色。同時，亦應注意陳列品之分類與標示，使觀者能一目了然。總之，私設陳列館之設計與裝飾，應以實用性與藝術性相結合，為收藏者提供一個良好之展示平台。



平和記念東京博覽會私設陳列館及陳列裝飾調查報告

工學博士 塚本 靖

私設陳列館調查報告

報告員主任 伊東忠太  
同 前田松韻  
同 佐藤功一  
同 武田五一  
同 田中正義  
同 神木健介

平和記念東京博覽會規則第五十九條第二項ノ規定ニ基キ會長ハ本員ニ囑シテ擔當審査官及同補助ヲ選定シ私設陳列館及陳列裝飾ノ調査ヲ爲サシメ意匠優良ニシテ能ク出展者經營ノ目的ヲ達シ兼テ博覽會ノ施設ニ光彩ヲ添加シタリシモノヲ擇ミ其優劣差等ヲ檢査セシメタリ  
本員ガ選定セシ調査員左ノ如シ

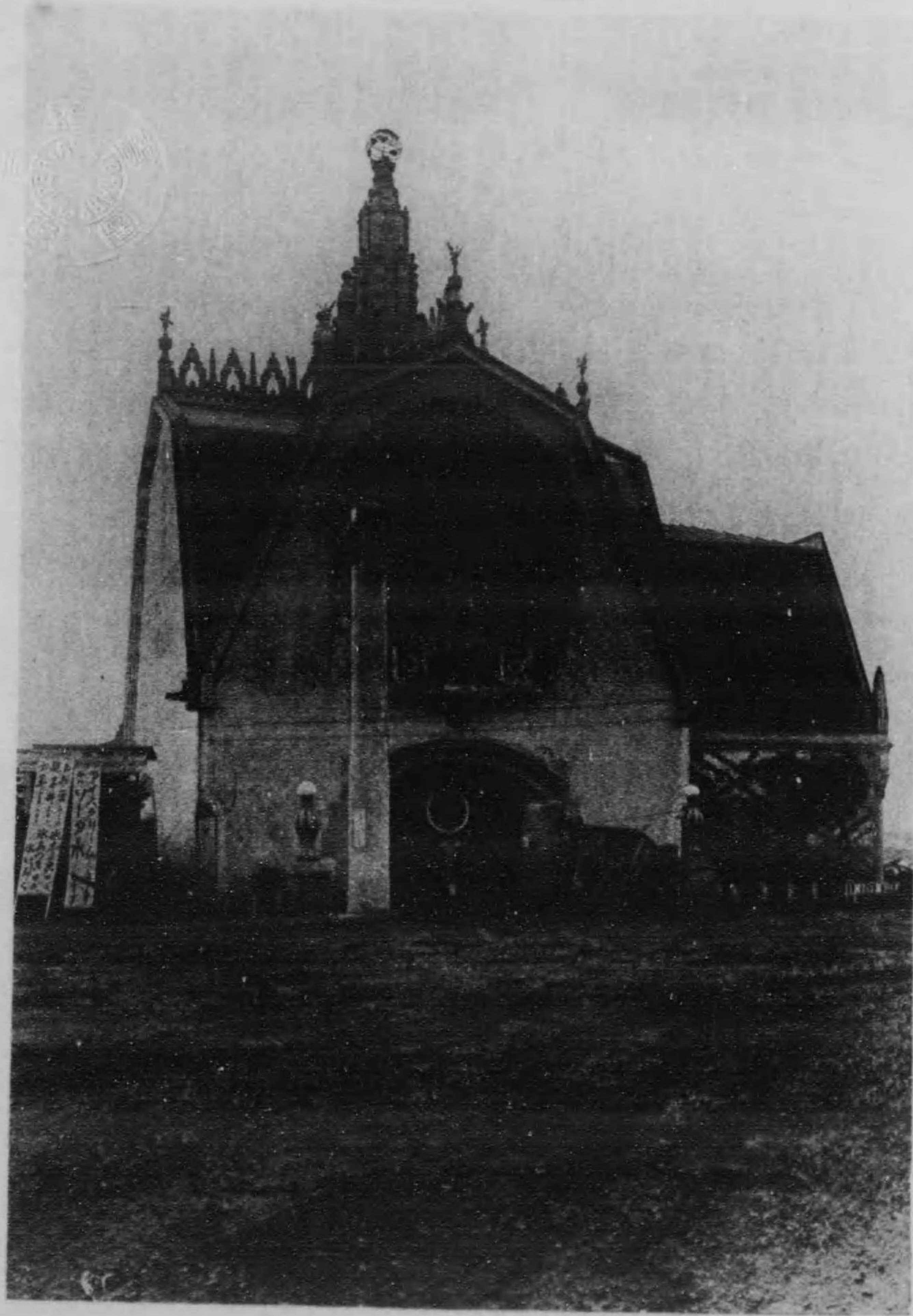
Table listing committee members and their positions: 調査員 (Investigation Members) including 土屋純一, 前田松韻, 本野精吾, 神木健介, 田中正義, 伊東忠太, 大澤三之助, 武田五一, 島田佳矣, 佐藤功一, 岡田信一郎, 鹿島英二, 安田祿造, 水谷武彦, 森田洪.

私設陳列館ハ第一會場ニ廿七字、第二會場ニ七字アリ、各自特異ノ意匠ヲ以テヨク人目ヲ惹キ、博覽會場ノ賑興ニ寄與スル所少カラズ就中第二會場ノ住友館ハ意匠最モ卓越シ、内容外觀相俟テ壯美ヲ發揮セルモノニシテ、名譽大賞ニ價スルモノナリ、第一會場ニ於テハミツワ館ハ華美ヲ以テ勝リ、中山太陽堂ハ快調ヲ以テ優ル。寺田コイル天館ハ堅實ノ觀アリ、東京文房具館ハ雄大ノ姿アリ、三共館ハ質實ニシテ羊毛館ハ偉大ナリ、齊藤省三ノ温室ハ眞摯ニシテ精到ナリ、以上ハ均シク名譽賞ニ價スルモノトス

其他日本光學館ハ簡ニシテ要ヲ得、東京マイル館ハマイルヲ利用シテ好果ヲ擧ゲ、淺沼寫眞館ハ洗練セル技巧ヲ示シ、酒間屋組合ハ丹楹碧莖ヲ以テ異彩ヲ放チ、東洋麻紡會社ハ最簡素ナリ、以上ハ皆金牌ニ價



住友館



スルモノトス  
銀牌以下ハ之ヲ省略ス

調査ノ結果賞ヲ擬セシモノヲ府縣別ニ表示スレバ左ノ如シ

私設陳列館出品及授賞表

府縣名	出品人員數	出品數	大賞牌	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル百分比
東京府	1	1	1	7	5	6	2	1	20	1
大阪府	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
千葉縣	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
岡山縣	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	1	7	5	8	2	1	23	1

陳列棚及裝飾調査報告

報告員主任 調査員 大澤三之助

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
岡田信一郎	鹿嶋英二	安田祿造	本野精吾	島田佳矣	土屋純一	大澤三之助	大澤三之助	大澤三之助	大澤三之助	大澤三之助

全館ヲ通ジテ約三千個ノ陳列棚中官廳及ビ外國ノ經營ニ係ルモノハ之レヲ除キ其調査ヲ行ヒ優越セルモノヲ撰出セリ其結果左表ノ如シ

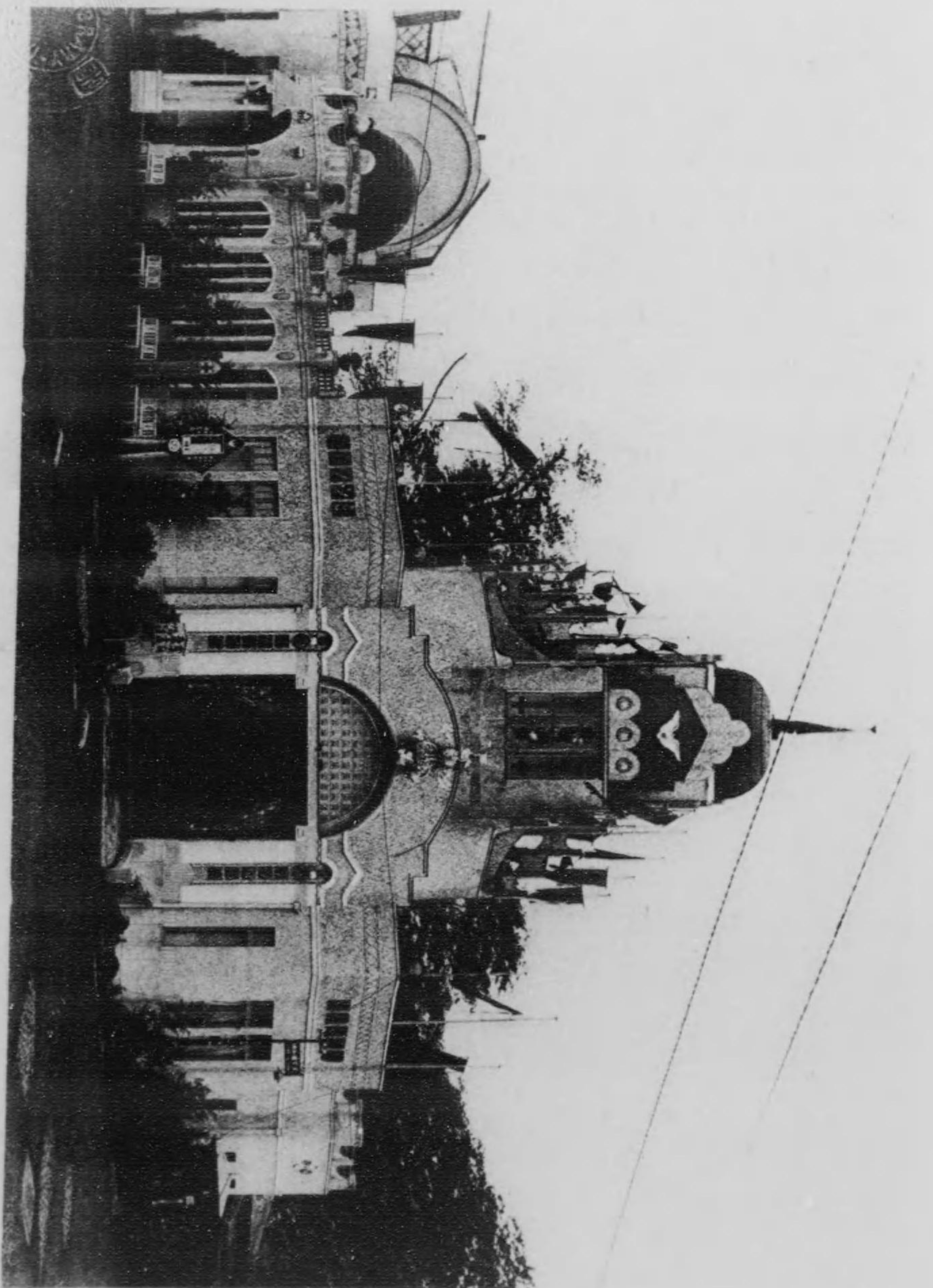
陳列棚及裝飾館別授賞表

名譽賞牌	大賞牌	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
館名	1	1	1	1	1	1	1
教育館	1	1	1	1	1	1	1
蕪菜園藝館	1	1	1	1	1	1	1
農業館	1	1	1	1	1	1	1
水産食料館	1	1	1	1	1	1	1
衛生館	1	1	1	1	1	1	1
蠶絲館	1	1	1	1	1	1	1
文具館	1	1	1	1	1	1	1
化學工業館	1	1	1	1	1	1	1
染織別館	1	1	1	1	1	1	1
建築館	1	1	1	1	1	1	1
染織館	1	1	1	1	1	1	1
製作工業館	1	1	1	1	1	1	1
北海道館	1	1	1	1	1	1	1
朝鮮館	1	1	1	1	1	1	1
滿蒙館	1	1	1	1	1	1	1
臺灣館	1	1	1	1	1	1	1
樺太館	1	1	1	1	1	1	1
機械動力館	1	1	1	1	1	1	1
電氣工業館	1	1	1	1	1	1	1
交通館	1	1	1	1	1	1	1
航空館	1	1	1	1	1	1	1
鑛産林業館	1	1	1	1	1	1	1
合計	8	1	1	1	1	1	1

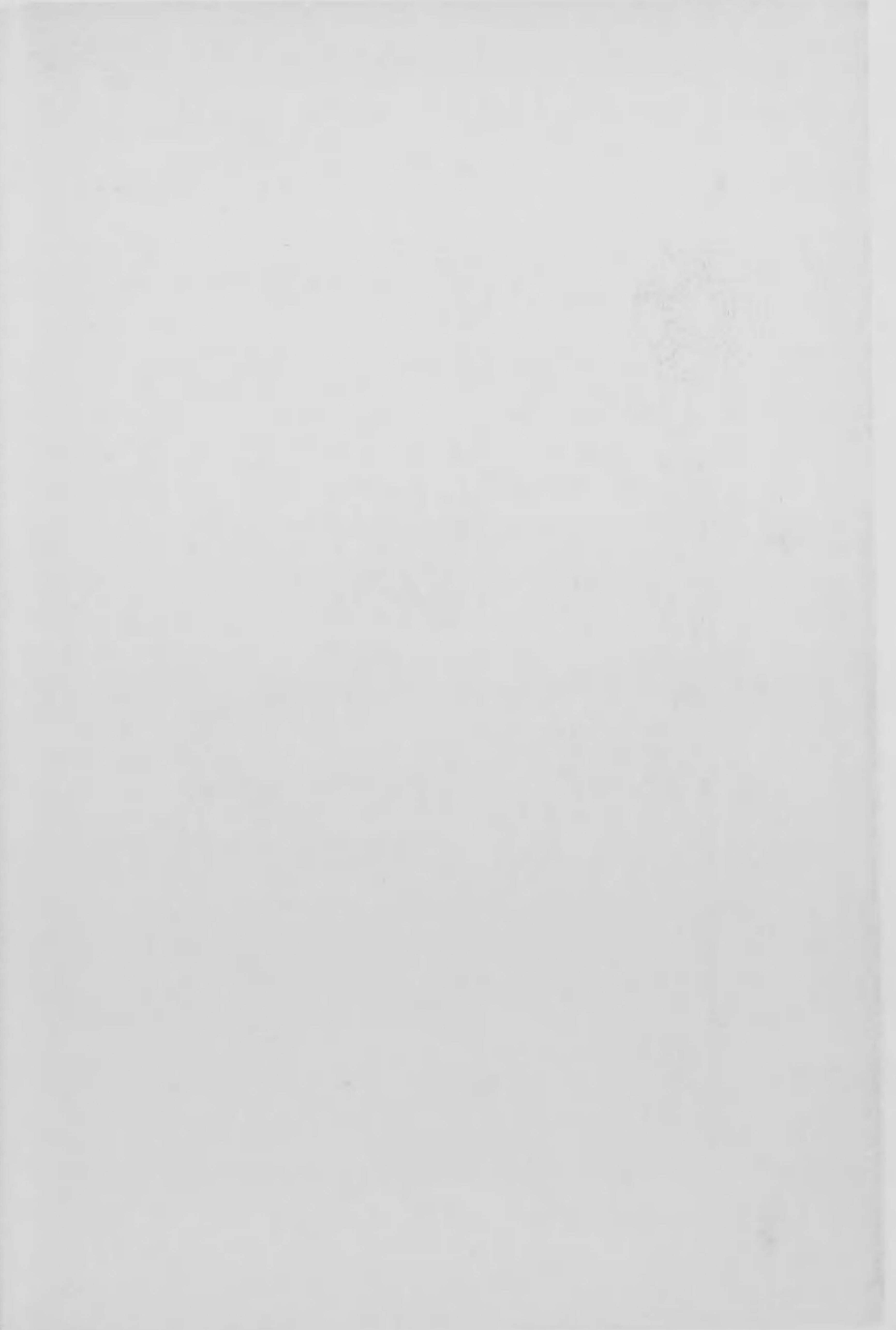
右ノ内金牌以上ヲ得タルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

三越 吳服店  
高島屋 吳服店





館ヲツミ





堂陽太山中





金牌

- 白木屋呉服店
- 東京製綱株式會社
- 日本郵船株式會社
- 松坂屋いとう呉服店
- 今川橋松屋呉服店
- 東京小間物化粧品卸商同業組合
- 東京玻璃器同業組合
- 伊勢丹呉服店
- 日本橋松屋呉服店
- 宮田製作所
- 東京鋼材株式會社
- 東京地下鐵道株式會社
- 東京電氣株式會社外四會社聯合
- 藤倉電線株式會社
- 東京瓦斯株式會社

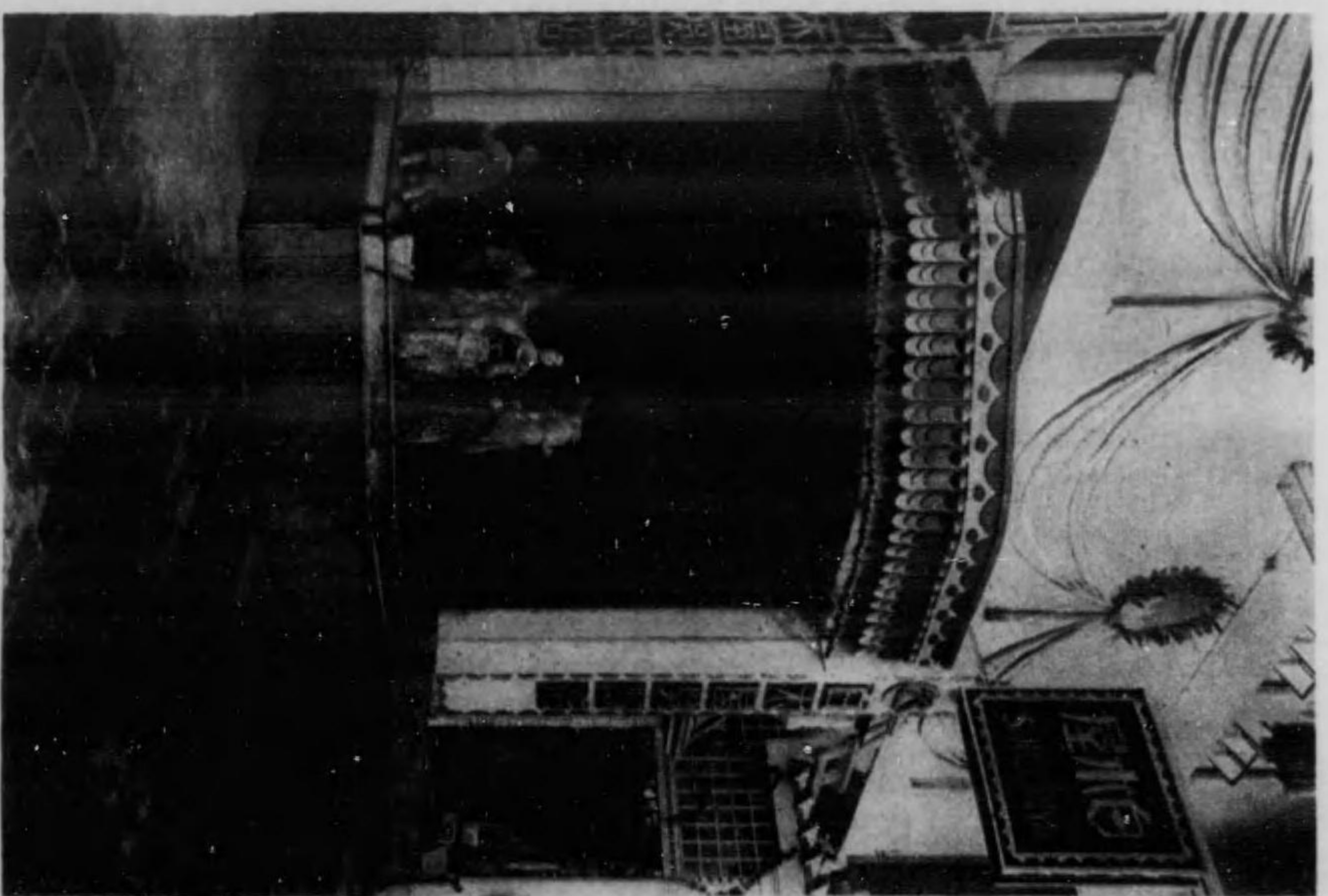
商家店頭ノ陳列裝飾ハ近來大ニ進歩シ各種ノ新シキ試ヲ以テ其技ヲ競フノ狀況ニアリ當博覽會ニ於ケル陳列棚及裝飾ノ方法ヲ大正博覽會時ノ其レト比較シ一段ノ進歩發達ヲ示セルハ自然ノ趨勢ナリ就中人形ヲ使用シタル裝飾法ノ多キハ前回未ダ其例ヲ見ザル所ニシテ各館ヲ通ジテ其傾向ヲ認ムルト雖特ニ染織別館ニ於テ其數多ク且ツ製作優秀ナルモノヲ認ム元來此種ノ裝飾法ハ多額ノ資金ヲ費シタル貴族的ノモノニシテ之ヲ博覽會經營ノ上ヨリ見レバ其規模ノ上ニ相當ノ效果ヲ與ヘタルモノトシテ大ニ賞スベキモノアレドモ繻ツテ裝飾法ノ見地ヨリ見レバ

今回ノモノ、多クハ既ニ其頂點ニ達シタルモノニシテ一步ヲ誤レバ人形本意トナリ出品物ト裝飾トノ主客顛倒ノ弊ニ陥ルノ虞アリ之レ將來注意ヲ要スベキ點ナリトス次ニ無趣味ナル實用材料ヲ巧ミニ利用シテ形狀配色兩ツナガラ其意匠ニ成功シタルモノ、多クハ之レヲ動力館ニ見又燈光ヲ利用シテ明暗ヲ巧ミニ調節シ色彩ヲ以テ裝飾ニ一種ノ印象ヲ與ヘ以テ人目ヲ惹キ廣告ノ效果ヲ顯著ナラシメタルモノハ之レヲ電氣、交通館ニ見、又裝飾ノ方法良ク商品ノ意義ヲ現出セシモノハ化學工藝館ニ於テ優秀ナルモノヲ認メタリ而モ一般此種ノ裝飾法ニ於テ一段ノ進歩ト見做スベキコトハ個人ノ陳列裝飾トシテ素リニ自家本意ヲ專ラニセズ館内各部ノ裝飾ト調和ノ統一ヲ計ル上ニ於テ相當ノ注意ヲ意ラザリシ形跡アルノ一事ナリ、近來光學又ハ機械學等ノ智識ハ一般ニ普及シ之ヲ各種ノ廣告裝飾ニ應用シ光線ニ各種ノ色彩ヲ與ヘテ裝飾ノ效果ヲ顯著ナラシメ又ハ鏡ノ利用良ク狹隘ナル面積ニ變化ノ觀ヲ與ヘ又陳列品ニ一種ノ運動ヲ與ヘテ巧ニ人目ヲ惹ク等ノ意匠ヨリ現今美術界ニ流行セル未來派表現派等ノ意義ヲ利用シタルモノナド活用甚ダ多方面ニ互レルハ又以テ斯界裝飾法ノ一大進歩ト認ムルヲ得ベシ且ツ各縣下經營ノモノニシテ意匠ノ大ニ見ル可キモノアリテ一見都市ノ其レト殆ンド逕庭ナキモノアリ之レ則チ裝飾思想ノ一般普及ヲ意味スルモノニシテ洵ニ欣ブベキ傾向ナリトス

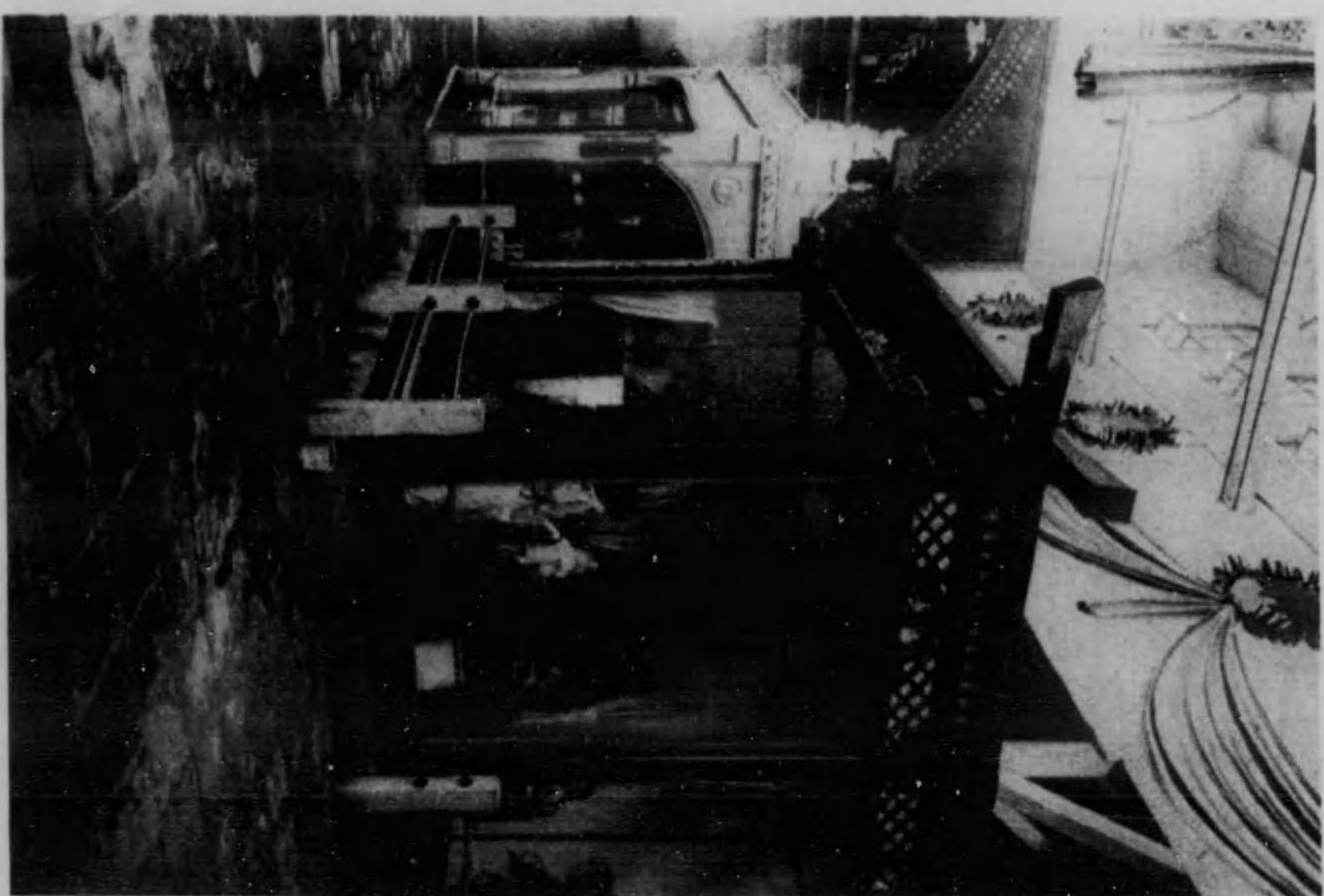
陳列裝飾出品及授賞表

府縣名	出品人員	出品數	出品名	大賞牌	名譽牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計
東京府	1	1	1	1	8	9	14	39	64	134
京都府	1	1	1	1	1	1	2	1	1	3
大阪府	1	1	1	1	1	1	4	14	1	19





店 服 吳 屋 木 白

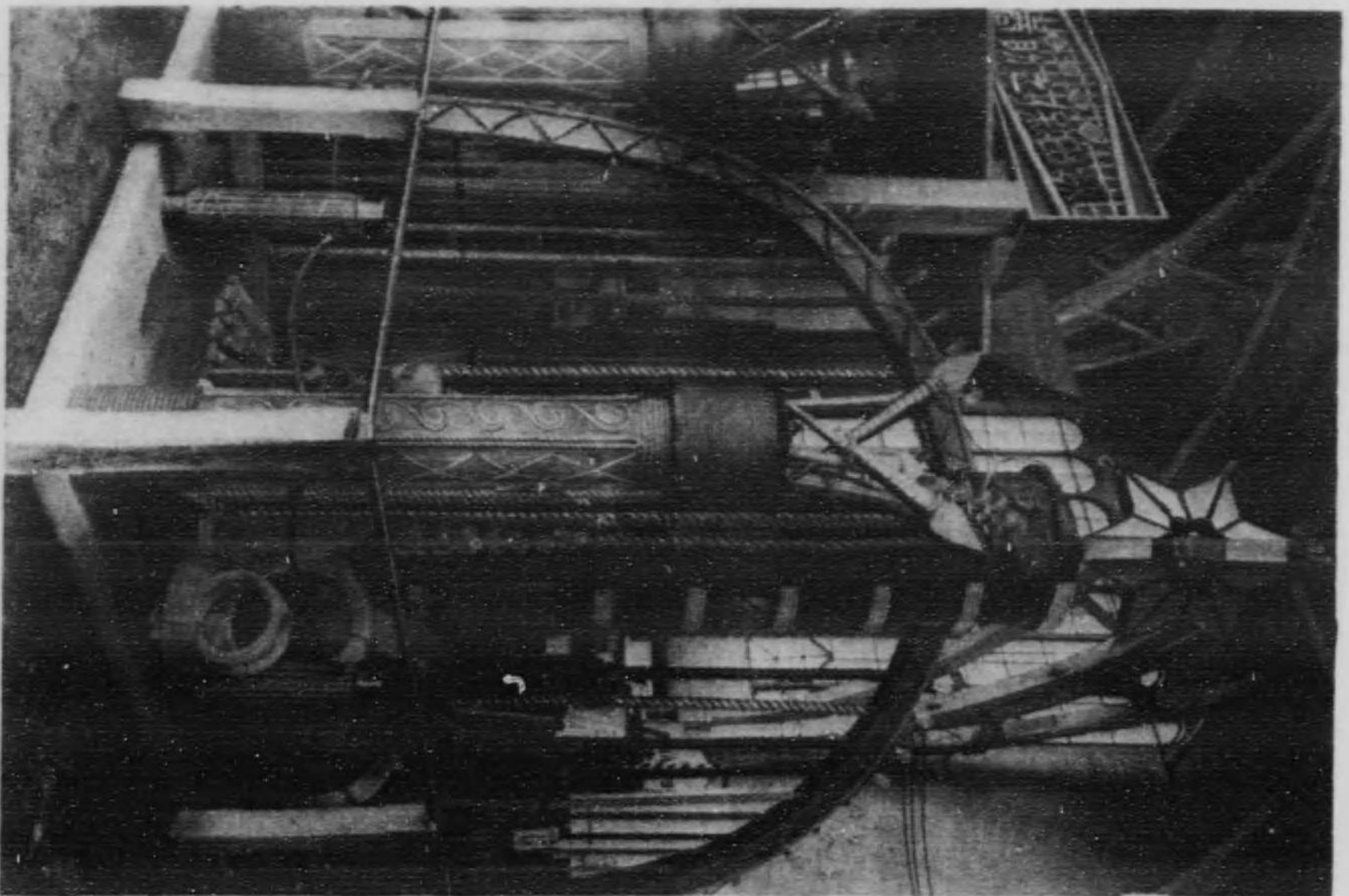


店 服 吳 越 三

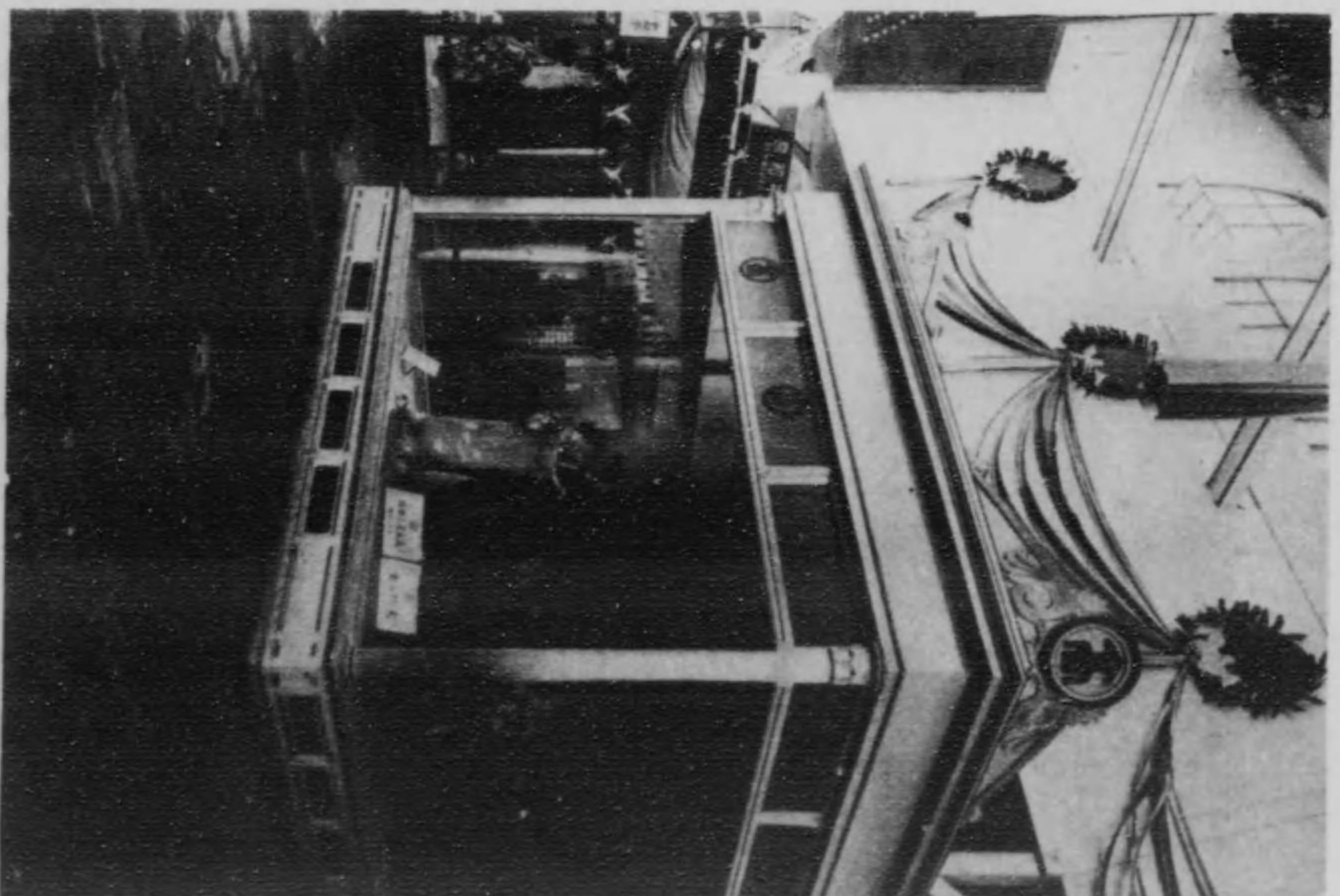
計	北	朝	鹿	宮	福	香	德	和	山	島	富	石	岩	宮	長	靜	愛	奈	栃	茨	千	群	埼	兵	神
	海	鮮	兒	崎	岡	川	島	歌	口	根	山	川	手	城	野	岡	知	良	木	城	葉	馬	玉	庫	奈
	道	總	島	縣	縣	縣	縣	山	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	川
	廳	府	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣

八																									
九																									
一																									
九																									
六	一	一	一	一							一					一	三		一	一		二	一		
一	五			一	五	一	一	一	一	一		一	二	二	一	二	一		一	一		一	四	四	
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	六	一	一	二	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一





東京製網株式會社



高島屋服店



大正十二年八月五日印刷  
大正十二年八月十日發行

平和記念東京博覽會

印刷者 井上源之丞

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所

東京市本所區番場町四番地

凸版印刷株式會社本所分工場



片 4P 75

明 輝 演

東京市本所區新橋三丁目  
明輝演習會  
昭和二十一年八月十日

明 輝 香

東京市本所區新橋三丁目  
明輝香  
昭和二十一年八月十日

平 麻 屋 念 東 京 新 製 會

大 五 十 二 年 八 月 十 日 發 行

大 五 十 二 年 八 月 十 日 明 輝 演







終